

全国高等専門学校デザインコンペティション

デザコン2006 in 都城 記録集



目 次

全国高等専門学校デザインコンペティション 2006 in 都城の 記録集発行にあたって	1
実施概要	2
全国高専デザインコンペティション 2006 in 都城	3
構造デザインコンペティションの概要	4
環境デザインコンペティションの概要	5
プロポーザルコンペティションの概要	6
全国高専デザコン 2006 in 都城応募結果	7
イベントスケジュール	8
共通行事進行	9
審査員紹介	10
構造デザインコンペティション本選出場作品一覧	13
環境デザインコンペティション本選出場作品一覧	15
プロポーザルコンペティション本選出場作品一覧	16
審査結果一覧	17
構造デザインコンペティションの経過および審査結果	18
環境デザインコンペティションの経過および審査結果	28
プロポーザルコンペティションの経過および審査結果	37
協賛企業・団体名一覧	42
委員紹介	43



全国高等専門学校デザインコンペティション
実行委員会委員長(都城工業高等専門学校長)

廣 瀬 寛

全国高等専門学校デザインコンペティション(略称 = デザコン) 2006 in 都城は、昨年11月、都城市で開催し無事終了することができました。

本大会の開催にあたり、多大なご支援・ご協力を賜りました文部科学省、国土交通省、宮崎県、都城市をはじめ多数の関係機関・団体や企業の皆様方、審査員の先生方に対しましてまずをもって、心から感謝申し上げたいと思います。

この大会は、平成15年度までは「全国高専建築シンポジウム」という一部高専の建築学科による合同行事でしたが、平成16年度から全国55の国立高専が(独)国立高等専門学校機構のもとに集結したことを契機に、デザインの領域を「人が生きる生活環境を構成するための総合技術」として根本的に捉え直し、参加学科も環境都市工学系学科等に拡大しコンペティションとして取り組んでいるもので、昨年度の兵庫県での第2回大会に次いで今年度は第3回目でした。

都城高専が開催主管校として引き受けることが決まって以来、テーマについて検討を重ね、これまで実績のあるブリッジコンテストに加え、環境デザインでは、「山あいの生きられる空間」を、また、プロポーザルでは「商店街のマスカレード」をテーマといたしました。

テーマについては、本大会がここ宮崎県都城市で開催されることから、この地域の特性を踏まえた課題であり、かつ普遍性のあるものという視点から検討し、提案いたしました。ただ、このテーマは、いろいろな面からのアプローチが可能であるだけに、結果的には作品として提案するのが難しい問題となってしまう、正直どれほどの応募があるか心配した面もありました。

しかし、構造デザインを含め、国公私立併せて33校から、318点という多数の応募があり、また、何れの作品も高専生の若々しい感性と創造性に富んだアイデアを実現した魅力ある作品が提案されたのはご案内の通りです。このことは、我々の心配を無用なものとするとともに、高専生の日頃の学習成果と高専教育の高いレベルを現していたものと思います。

この度、第3回全国高等専門学校デザインコンペティションの成果等を記録集として発行することとしました。この記録集が各校各方面において活用されることを祈念するとともに、デザコンのますますの発展を願って私からの挨拶とします。

実 施 概 要

- 主 催** 高等専門学校連合会
- 開催主管校** 都城工業高等専門学校
- 後 援** 文部科学省, 国土交通省九州地方整備局, 宮崎県, 都城市
 (社) 文教施設協会, (社) 霧島工業クラブ, (社) 宮崎県建設業協会
 (社) 宮崎県建築設計事務所協会, (社) 宮崎県建築士会, (社) 日本建築学会
 (社) 土木学会, (株) 日刊建設工業新聞社
- 協 力** 長岡技術科学大学環境・建設系, 豊橋技術科学大学建設工学系, 都城地区製材業協同組合
 都城地区木材青壮年会, 千日通り商店街振興組合, 都城工業高等専門学校同窓会
 (株) 総合資格, (株) 建築資料研究社/日建学院
- 応募内容** 全国の高等専門学校で技術教育を受ける学生に, 生活環境関連のデザインをコンセプトとして, セッションごとに課題を与え競技を実施する。
 コンペティション及びテーマ
 I 構造デザインコンペティション「ブリッジコンテスト」
 II 環境デザインコンペティション「山あいの生きられる空間」
 III プロポーザルコンペティション「商店街のマスクレード」

応募資格 全国の高等専門学校に応募の時点で在籍する学生

審 査 1. 予 選

区 分	期 日	会 場
環境デザインコンペティション	平成18年9月19日(火) ～9月20日(水)	九州大学
プロポーザルコンペティション	平成18年9月15日(金)	都城工業高等専門学校

2. 本 選

- 期 日 平成18年11月17日(金)～18日(土)
- 会 場 メインホテルナカムラ(都城市)
 ウエルネス交流プラザ(都城市)
 千日通り商店街(都城市)

表 彰 次の賞を授与しました。

構造デザインコンペティション	環境デザインコンペティション	プロポーザルコンペティション
最優秀賞 1点 (文部科学大臣賞)	最優秀賞 1点 (宮崎県知事賞)	最優秀賞 1点 (都城市長賞)
優秀賞 2点	優秀賞 2点	優秀賞 2点
佳作 若干数	佳作 最優秀賞, 優秀賞を除く本選出場全作品	佳作 最優秀賞, 優秀賞を除く本選出場全作品
特別賞 1点 (日刊建設工業新聞社賞)	—	会場審査賞 若干数 (会場における投票)

開催会場 メインホテルナカムラ大会議場 宮崎県都城市上町8街区9号
 ウエルネス交流プラザ 宮崎県都城市蔵原町11街区25号
 千日通り商店街 宮崎県都城市上町8街区

1. 経緯

「全国高等専門学校デザインコンペティション」は昭和52年(1977)に明石高専と米子高専の建築学科で行われた建築教育における建築理論の実践プロセスについての研究交流シンポジウムがその始まりです。その後、第23回にあたる平成11年(1999)からの5年間は「全国高等専門学校建築シンポジウム」と改名し、全国の建築学科を持つ高専に呼びかけ建築教育の技能研鑽及び学生の設計技術の向上を研究するシンポジウムとして開催されました。そして、平成16年(2004)には、デザインの領域を「人が生きる生活環境を構成するための総合的技術」と捉え直し、建築学科の枠を廃し土木建築系学科を中心に高専全体が取り組む「全国高等専門学校デザインコンペティション」に生まれ変わりました。前回の明石大会においてこの取り組みは一層の拡がりをみせましたが、第3回となる今大会は南九州の中核都市である都城を舞台にこれを発展的に継承するものです。

2. 主旨

地域社会は時代の移り変わりとともにいろいろな問題を抱えています。技術は社会生活を支える根幹であり、それに裏打ちされた「デザイン」はこれらの問題を解決する手段として機能すべきであることは言うまでもありません。しかし、最近の建築技術者による事件のように、デザインが時代に飲み込まれ想定外の事態を引き起こしている現実もあります。この大会では、まず技術者教育の原点に立ちかえり、これまで実績のあるブリッジコンテストを通じて、技術者を目指している学生諸君に技術あるいはアイデアを創造しデザインする喜びを純粹に体感していただきました。また、地域社会が抱える問題を解決するデザインとして、山あい你的生活空間、並びに今後多くの地方で伐採期を迎えるスギを素材に古い商店街の表を飾る街具を提案していただきました。

3. 概要

全国の高等専門学校で技術教育を受ける学生が日頃の教育成果を生かした生活環境関連のデザインや設計等を競うことにより、高等専門学校が目指す創造性と実践力に富む人材の育成に寄与するとともに、地域社会において“ものづくり”や科学技術への関心をさらに深めてもらうことを目的として、3部門のコンペティションを実施しました。

1. テーマ：「ブリッジコンテスト」

2. 主旨

構造デザインは、機能性、経済性、施工性など様々な制約を満たしつつ安全な構造物をつくる技術です。安全性のみを追求した構造物は現実的には機能性や経済性に問題が生じ、経済性を追求すれば人名を損ないかねない構造物となってしまう場合があります。このため、構造技術者は、デザインする構造物への要求性能を確保しつつ、敷地や予算、施工期間などの制限を満たす構造デザインを提示する使命を持っています。

このコンペティションでは、定められた条件の中で行われるブリッジの設計・製作を通して、構造デザインの可能性を目指して実施されました。

3. 製作物とプレゼンテーション

用紙 製作物は、スパン 1m、全高 1m 以内、質量 200g 以内のブリッジです。路面は必要とせず、構造物上の中央部で 30cm 幅の 2 点載荷であれば、どこに載荷点を置いても構いません。使用材料は、断面 10mm × 10mm(円形の場合は最大径 10mm) 以内、1 本の長さ 300mm 以内の直線状の木材、木工用接着剤、及び風糸(全長 10m 以内)です。プレゼンテーション用紙は、A2 版 1 枚に製作物の設計主旨、平面図、立面図、写真、質量 (g)、耐荷予測値 (kg) などをまとめたもので、製作物と共に会場に展示されました。

4. 競技と審査

昨年度と本年度の構造コンペティションの違いは、質量 300g が 200g になり、路面がなくなり、載荷点も支持端の高さと関係なく設定できるようになったことです。若干、ブリッジとしての条件を薄めてしまいましたが、この違いにより、より強く、より軽く、そして、より正確な耐荷予測値の推定への目標に向けて、どのように製作物に変化するか、各チームの発想力、設計力、ものづくり力を期待しました。なお、本年度は、耐荷力を重視するために、荷重増分プロセスが終了しても崩壊しない場合は、耐荷予測値の 2 倍強程度までは荷重増分ができるような規則を設定しました。

審査は、耐荷質量 (20%)、比耐荷質量 (20%)、予測確度 (20%)、審査員による評価 (40%) に基づいて行われ、全競技終了後に各チームの得点を算定し、得点順位をもって競技順位とします。競技順位が 1 位のチームには文部科学大臣賞が授与されました。

なお、審査員に、全作品の中で、もっとも技術的に優れた作品として選ばれたチームには、日刊建設工業新聞社賞が授与されました。

1. テーマ：「山あいの生きられる空間」

2. 主旨

日本では平野部以外の山間部が国土の7割を占めています。このような地域は、自然環境に恵まれ、生活の場、生産の場としての森林・農地の管理を通じて、地球環境への貢献、水源涵養、災害防止、保健休養の場の提供、伝統文化の継承など多くの公益的機能の維持・増進に貢献する「国土保全の場」としても大きな役割を担っています。しかしながら、山間部は、農林業の低迷、若者の流出、高齢化が進行し、国土保全等の公益的な機能の維持が困難になって来ています。山間部の問題点を現在の社会環境の変化を踏まえて解決し、持続的に環境が保全され住み続けることが可能な山間部の空間は「山あいの生きられる空間」と呼べるでしょう。コンペでは、学生諸君に、身近な山間部をとらえ、自ら問題を発見し、問題を解決し、「山あいの生きられる空間」の形成のためのアイデアとデザインを提案してもらいました。

3. 予選及び予選結果

予選はA1サイズのプレゼンテーションポスターを提出してもらい、プレゼンテーションポスターにより審査を実施しました。応募数は、185作品で、2人の審査員の審査によって、15作品が本選に選ばれました。本選出場予定の15作品の概要は、本プログラムに掲載されました。

4. 本選要領

本選では、既に提出のプレゼンテーションポスター、ポスターセッション及びプレゼンテーションの審査が行われ、最優秀賞1点、優秀賞2点を選考されました。また、最優秀、優秀賞に選考されなかった本選出場作品は、佳作として表彰されました。

プレゼンテーション（発表）は、交流プラザのホールにおいて、1作品発表7分質疑4分の持ち時間で提案を発表説明してもらいました。発表形式に指定はなく、パソコン、ビデオカメラ等を使用して、中央スクリーンにデータを、サブスクリーンに模型を投影しながらの発表が可能な機材を準備しました。模型の有無は任意でした。

ポスターセッションは、交流プラザ展示室で、展示されたプレゼンテーションポスター（模型がある場合は模型も展示）と、先行プログラムのプレゼンテーション結果を踏まえ、審査員が巡回質問する形で行いました。

5. 結果発表と講評

審査員によって、結果の発表と本選作品各々についての講評が行われました。

1. テーマ：「商店街のマスクレード」

2. 主旨

現在、都城市中心市街地に位置する千日通り商店街では、老朽化したアーケードが日の光を遮り、閉店した店舗と相まって、日中でも人通りが少なく、活気がない状態です。そのため、このアーケードを撤去し、日の光を招き入れ、明るい商店街を再建すべく、再開発が計画されています。そこで、この商店街再開発の一環として、店舗の前面や駐車場等に設置し、街並のイメージを変える「店舗の仮面」となる街具の提案を求めるのが、このコンペティションの目的とされました。

「店舗の仮面」は仮設の街具であり、必要に応じて人力で移動・収納・撤去が可能なものとししました。また、材料としては宮崎県産のスギ材を利用し、暖かみのある建築物の第2の皮膚となる機能を有することを条件とししました。店舗で販売する物品のショーケース、古くなった店舗の仮設のファサード、遠来の客のための休憩場所を提供するベンチ、撤去されたアーケードの代わりに日陰を提供する日よけ、休業中の店舗前に設置し、華やかなイメージを演出可能な仮面など、多種多様なアイデアの提示を期待しました。

3. 作品の制作条件

制作する作品は、外寸が900mm×2,700mm×1,800mm以内に収まること、規定の宮崎県産のスギ材を使用すること、制作チームは4名以下で構成し、チームが独力で移動が可能なこと等を条件とししました。また、使用する材料や道具は基本的には事務局が準備しましたが、それ以外のもも、チームのメンバーが手荷物として持ち込める範囲で許可しました。事務局では、仕上げ寸法が42×87mm、18×87mm、24×33mm、42×42mmで、長さは何れも2,000mmの杉材を、必要量準備しました。また、道具は、鋸、インパクトドライバー、曲尺等をそれぞれ1個ずつと、必要量のビスが配布されました。

4. 競技と審査

プロポーザルコンペティションは、予選と本選に分けて実施されました。予選では、作品に関する解説や図面、模型写真等を掲載したA1サイズ用紙1枚の提出を求めて実施されました。その結果、83チームからの作品の応募があり、その中から12チームの作品が選出され本選に出場しました。

本選では、大会初日の正午から翌日の正午迄の間に、提案した作品を実際に制作し、完成品を千日通りに展示して、審査員に対して5分間のプレゼンテーションを行いました。審査は審査委員の協議により行われ、最優秀賞（都城市長賞）1点、優秀賞2点、会場賞が授与されました。

全国高専デザコン 2006 in 都城 応募結果

地区等	高専名	学科等名	構造デザイン	審査結果(予選応募数→本選参加数)	
				環境デザイン	プロポーザル
北海道	1 函館工業高等専門学校	環境システム工学専攻+環境都市工学科	1		
	2 苫小牧工業高等専門学校				
	3 釧路工業高等専門学校	建築学	2		1
	4 旭川工業高等専門学校				
東北	5 八戸工業高等専門学校	建設環境工学科	1		
	6 一関工業高等専門学校				
	7 宮城工業高等専門学校	建築学	2	2	3
		建築・情報デザイン学専攻		1	1
	8 仙台電波工業高等専門学校				
	9 秋田工業高等専門学校	環境都市工学科	2	2	
関東信越	10 鶴岡工業高等専門学校				
	11 福島工業高等専門学校	建設環境工学科	1		2
	12 茨城工業高等専門学校				
	13 小山工業高等専門学校	建築学	1	2	1
		建築学専攻+建築学	1		
	14 群馬工業高等専門学校	環境都市工学科	2		
	15 木更津工業高等専門学校				
	16 東京工業高等専門学校				
	17 長岡工業高等専門学校	環境都市工学科	1		
	18 富山工業高等専門学校				
東海北陸	19 富山商船高等専門学校				
	20 石川工業高等専門学校	建築学	1	6→1	2
		建築学科+環境建設工学専攻		1	
		環境建設工学専攻+環境都市工学科	1		
	21 福井工業高等専門学校	環境都市工学科	2		
	22 長野工業高等専門学校	環境都市工学科	2		
	23 岐阜工業高等専門学校	建築学		4→1	
		建設工学専攻	2		
	24 沼津工業高等専門学校				
		建築学	1	3	14→3
近畿	25 豊田工業高等専門学校	環境都市工学科	1		
		環境都市工学科+情報工学科		1	
		建設工学専攻+電子機械工学専攻+建築学科			1
	26 鳥羽商船高等専門学校				
	27 鈴鹿工業高等専門学校				
	28 舞鶴工業高等専門学校	建設システム工学科	1		
	29 明石工業高等専門学校	建築学	2	46→6	4→1
		建築都市システム工学専攻+建築学科		1→1	
	30 奈良工業高等専門学校				
	31 和歌山工業高等専門学校	環境都市工学科	1		
中国	32 米子工業高等専門学校	建築学	2	69→4	15→2
		建築学専攻+建築学			1
	33 松江工業高等専門学校	土木工学	1	1	
	34 津山工業高等専門学校				
	35 広島商船高等専門学校				
		建築学	1	18→2	
	36 呉工業高等専門学校	建築学科+建設工学専攻		1	
		建設工学専攻	1		
	37 徳山工業高等専門学校	土木建築工学科	2	2	16
	38 宇部工業高等専門学校				
四国	39 大島商船高等専門学校				
	40 阿南工業高等専門学校	建設システム工学科	2	1	5→1
	41 高松工業高等専門学校	建設環境工学科	1	1	
	42 詫間電波工業高等専門学校				
	43 新居浜工業高等専門学校	機械工学科	2		
	44 月削商船高等専門学校				
	45 高知工業高等専門学校				
	46 久留米工業高等専門学校	機械工学科	2		
	47 有明工業高等専門学校	建築学	2	7	2→1
	48 北九州工業高等専門学校				
九州沖縄	49 佐世保工業高等専門学校				
	50 熊本電波工業高等専門学校				
	51 八代工業高等専門学校	土木建築工学科	1	4	
		環境建設工学専攻+土木建築工学科			1
	52 大分工業高等専門学校	都市システム工学科		2	
	53 都城工業高等専門学校	建築学	1	2	6→1
	54 鹿児島工業高等専門学校	土木工学	1		
	55 沖縄工業高等専門学校				
	56 札幌市立高等専門学校				
	公私立	57 東京都立産業技術高等専門学校			
58 大阪府立工業高等専門学校					
59 神戸市立工業高等専門学校		都市工学科	1		
60 サレジオ工業高等専門学校		デザイン工学科		2	8→3
61 金沢工業高等専門学校					
62 近畿大学工業高等専門学校		建設システム工学科	2	5	
合計	応募総数		31校	18校	14校
	本選参加数		50点	185点	83点
			31校	5校	7校
			50点	15点	12点

本選参加校計 32高専(34学科 6専攻)

イベントスケジュール

下記のスケジュールで全国高等専門学校デザインコンペティション 2006 in 都城 は開催されました。

11月17日(金)

時間	構造デザイン コンペティション	環境デザイン コンペティション	プロポーザル コンペティション	時間	備考
11:00			受付 (都城市民会館ロビー)	11:00	
12:00				12:00	
14:00	受付・製作物確認・計測等 (メインホテルナカムラ5階)	受付(14:00～14:30) (ウエルネス交流プラザ1階)	作業 (都城市民会館ロビー)	14:00	総合受付 (メインホテルナカムラ5階)
15:30	オリエンテーション (メインホテルナカムラ5階)	オリエンテーション 機器調整等 (ウエルネス交流プラザ 2階ムジカホール)		15:30	
16:30				16:30	
17:00	開会式(メインホテルナカムラ5階)			17:00	
17:30	ウェルカムパーティー(メインホテルナカムラ5階)			17:30	
18:45	休憩			18:45	
19:00	記念講演会 (ウエルネス交流プラザ2階ムジカホール)			19:00	
20:30			作業 (都城市民会館ロビー)	20:30	
22:00				22:00	

11月18日(土)

時間	構造デザイン コンペティション	環境デザイン コンペティション	プロポーザル コンペティション	時間	備考
9:30	競技 (メインホテルナカムラ5階)	プレゼンテーション (ウエルネス交流プラザ 2階ムジカホール)	作業 (都城市民会館ロビー)	9:00	
11:30	昼食			11:00	
12:30		昼食	運搬等	12:00	
13:30	競技 (メインホテルナカムラ5階)	ポスターセッション (ウエルネス交流プラザ1階 「茶霧茶霧ギャラリー」)	発表 (千日通り商店街)	13:00	
14:30	休憩			13:30	
14:45	審査まとめ (14:45～15:15)	審査まとめ (14:30～15:20)		14:30	
15:15	審査結果発表および講評 (メインホテルナカムラ5階)	審査結果発表および講評 (ウエルネス交流プラザ2階)	審査まとめ (15:00～15:30)	15:00	
15:50			審査結果発表および講評 (千日通り商店街)	15:20	
16:15	表彰式(各コンペティション報告) / 閉会式(16:15～17:00) (メインホテルナカムラ5階)			15:30	
17:00	参加者は帰途または宿舎へ(会場片付け)			15:50	
17:30		作品撤去、梱包、搬出		16:15	
18:30				17:00	
19:00				17:30	
20:00				18:30	
				19:00	
				20:00	情報交換会 (メインホテルナカムラ)

共通行事進行

共通行事につきましては、下記の流れで進行されました。

●開会式（11月17日（金）17:00～17:30 メインホテルナカムラ）

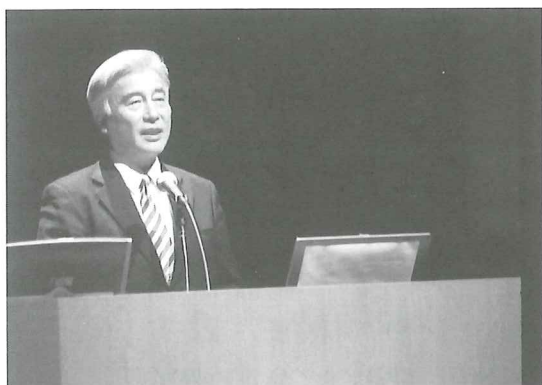
- | | | |
|-------------|-------------------------------|----------------|
| 1. 開式の辞 | デザコン開催地委員会副委員長 | 須田 量哉（都城高専教授） |
| 2. 主催者挨拶 | 高等専門学校連合会会長 | 四ツ柳 隆夫（宮城高専校長） |
| 3. 来賓挨拶 | 国立高等専門学校理事長 | 河野 伊一郎 |
| | 都城市助役 | 土持 正広 |
| 4. 参加学生代表挨拶 | 徳山高専土木建築工学科4年 | 小林 俊介 |
| 5. 委員紹介 | 全国デザコン実行委員会委員
デザコン開催地委員会委員 | |
| 6. 閉式の辞 | デザコン開催地委員会副委員長 | 須田 量哉（都城高専教授） |

●ウェルカムパーティー（11月17日（金）17:30～18:45 メインホテルナカムラ）

- | | | |
|--------------|----------------|---------------|
| 1. 歓迎の言葉 | 全国デザコン実行委員会委員長 | 廣瀬 寛（都城高専校長） |
| 2. 乾杯 | デザコン開催地委員会委員 | 剣田 貫治（都城高専教授） |
| 3. 主管校学生代表挨拶 | 都城高専専攻科建築学専攻1年 | 吉行 那穂子 |
| 4. 終了の言葉 | デザコン開催地委員会委員 | 國府 俊則（都城高専教授） |

●講演会（11月17日（金）19:00～20:30 ウェルネス交流プラザ）

講師：宮崎県木材利用技術センター所長・東京大学名誉教授 有馬 孝禮
演題『何故いま木材か』



●閉会式（11月18日（土）16:15～17:00 メインホテルナカムラ）

- | | | |
|-------------|------------------|---------------|
| 1. 開式の辞 | デザコン開催地委員会副委員長 | 須田 量哉（都城高専教授） |
| 2. 実行委員長挨拶 | 全国デザコン実行委員会委員長 | 廣瀬 寛（都城高専校長） |
| 3. 来賓挨拶 | 文部科学省高等教育局専門教育課長 | 永山 祐二 |
| 4. 成績発表及び表彰 | | |
| 5. 講評 | | |
| 6. 次年度主管校挨拶 | | 天野 徹（徳山高専校長） |
| 7. 閉式の辞 | デザコン開催地委員会副委員長 | 須田 量哉（都城高専教授） |

審査員紹介

以下の審査員の方々に各コンペティションの審査をしていただきました。

構造デザインコンペティション



豊橋技術科学大学建設工学系教授

加藤 史郎 氏 (かとう しろう)

(プロフィール)

- 1972年 名古屋大学大学院工学研究科建築学専攻博士課程修了
- 1972年 名古屋大学工学部助手
- 1978年 豊橋技術科学大学工学部助教授
- 1986年～ 豊橋技術科学大学工学部教授



長岡技術科学大学工学部環境・建設系教授

長井 正嗣 氏 (ながい まさつぐ)

(プロフィール)

- 1971年 大阪大学工学部土木工学科卒業
- 1973年 大阪大学大学院工学研究科土木工学専攻修士課程修了
- 1973年 川崎重工業株式会社
- 1988年 長岡技術科学大学工学部助教授
- 1996年～ 長岡技術科学大学工学部教授



宮崎大学工学部土木環境工学科教授

原田 隆典 氏 (はらだ たかのり)

(プロフィール)

- 1975年 九州工業大学開発土木工学科卒業
- 1980年 東京大学大学院博士課程土木工学専攻終了
- 1980年 宮崎大学工学部助教授
- 1997年～ 宮崎大学工学部教授

環境デザインコンペティション



九州大学大学院人間環境学研究院都市・建築学部門教授

竹下 輝和 氏 (たけした てるかず)

(プロフィール)

- 1972年 九州大学工学部建築学科卒業
- 1977年 九州大学大学院博士課程修了
- 1977年～ 九州大学工学部助手
九州大学工学部講師
九州大学工学部助教授
- 1990年 九州大学工学部教授
- 2000年 九州大学大学院人間環境学研究院長・人間環境学府長
- 2002年～ 九州大学大学院人間環境学研究院都市・建築学部門教授



九州大学大学院芸術工学研究院教授

石田 壽一 氏 (いしだ としかず)

(プロフィール)

- 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了
- 1992年 オランダデルフト工科大学研究員
- 1996年 九州芸術工科大学助教授
- 2004年～ 九州大学大学院芸術工学研究院教授
- 2006年～ 九州大学大学院デザインストラテジー専攻専任教授

プロポーザルコンペティション



宮崎県木材利用技術センター所長・農学博士・東京大学名誉教授

有馬 孝禮 氏 (ありま たかのり)

(プロフィール)

- 1965年 東京大学農学部林産学科卒業
- 1967年 東京大学大学院農学系研究科林産学修士課程修了
- 1967年 東京大学農学部助手
- 1974年 建設省建築研究所主任研究員
- 1981年 静岡大学農学部林産学科助教授
- 1987年 東京大学農学部林産学科助教授
- 1996年 東京大学大学院農学生命科学研究科教授
- 2003年～ 宮崎県木材利用技術センター所長
- 2003年 東京大学名誉教授



ナグモデザイン事務所 代表・デザイナー

南雲 勝志 氏 (なぐも かつし)

(プロフィール)

新潟県六日町生まれ 家具や景観プロジェクトを中心に活動 宮崎県でも日向市,日南市,宮崎市をはじめ,景観デザインに関わっている
グッドデザイン賞,家具インテリア部門金賞,土木学会景観デザイン賞最優秀賞
著書『デザイン図鑑+ナグモノガタリ』(ラトルズ) など
共著:都市の水辺をデザインする(彰国社)日本全国スギダラケ倶楽部 本部



有限会社 村岡宝飾店 代表取締役・千日通り商店街振興組合理事長

村岡 義明 氏 (むらおか よしあき)

(プロフィール)

- 1965年 宮崎県立都城商業高等学校卒業
- 1966年 村岡宝飾店
- 1981年 村岡宝飾店代表取締役
- 2006年～ 千日通り商店街振興組合理事長

構造デザインコンペティション本選出場作品一覧

番号	作 品 名	高専名	学 生 氏 名	指導教員
1	古代兵器ブルトン	函 館	佐藤 亨、奥山雄介、岸田久徳	平沢秀之
2	トラス第3号	釧 路	平澤宙之、梅川晶士	井上圭一
3	格子橋	釧 路	後藤祐貴、鎌田俊也、笠井圭祐	井上圭一
4	ハンカチ橋	八 戸	石田友康、神 章文	丸岡 晃
5	誤差0.3%	宮 城	影山伸太郎、西東和大、柳澤 良	飯藤將之
6	ガウディの橋	宮 城	阿部秀顕、郡山達也、千葉 遥	笠松富二夫
7	CLOWN CROWN	秋 田	松岡伸吾、目黒孝行	日野 智
8	檜木内橋	秋 田	工藤静香、渡辺舞子、荒木田桂那	日野 智
9	橋子	福 島	橋本千穂、橋本善文、増子 諒	根岸嘉和
10	五人目の戦士	小 山	金子慎太郎、鈴木 甫、小林加奈、 菱沼健二	山本嘉孝
11	ヤナコジ・アーチ	小 山	柳田晴哉、小島康太郎	大島隆一
12	未知との遭遇	群 馬	江口輝行、高橋大介、後藤直哉	三上 卓
13	Space MAQUIA	群 馬	小山民雄、高瀬陽彦、木暮美仁、 佐藤達也	三上 卓
14	HOT 1号	長 岡	大嶋義章、本間達朗、高柳拓哉	塩野計司
15	倒れちゃ阿寒湖のまりも！	長 野	岡澤和哉、廣川和希、堀内拓也、 横澤和哉、渡瀬陽平	永藤壽宮
16	橋元さん	長 野	小野心也、佐土雄亮、宮澤康太、 宮本卓司、豊岡恭平	永藤壽宮
17	Trapezoid	福 井	大坂拓也、鎌谷道人、木村祐子、 高野安恵、山口公平	吉田雅穂
18	Maximum 6	福 井	谷川直希、早川泰央、榊原勇一、 佐々木康二、佐藤 勝	阿部孝弘
19	バナナ橋	岐 阜	渡部達也、稲川啓太、野瀬暁則、 室田龍一、澤田賢太郎	廣瀬康之
20	pupa	岐 阜	西尾崇志、佐藤涼平、田中伸司、 服部真和、山中貴之	下村波基
21	なんちゃって橋	豊 田	岡田敬、佐々木瑞穂、阿南 樹、 小島 萌、那須仁美	加藤賢治
22	PENTAGON	豊 田	倉本了輔、前崎浩司、村澤雅史、 北川真史、渡邊浩章、	川西直樹
23	特急はやぶさ 2006 系	石 川	牛島華織、岸 昌宏、松浦摩理、 山森勇治、東川佳世	船戸慶輔
24	剛	石 川	田中志野、亀田祐子、竹津ひとみ、 伊阪陵代、番匠絢也、	富田充広
25	ラッキースターブリッジ	舞 鶴	SOUKCHALEUNE CHANTHAVONG 中出章太、ROKHAMSAY CHINDA	高谷富也

番号	作 品 名	高専名	学 生 氏 名	指導教員
26	〇〇ツ丸見え	明 石	滝内雄二、杉本正太、福池章平、 山崎幸宏、河西孝平	武貞健二
27	友情の架け橋	明 石	太田浩亮、新田剛士	荘所直哉
28	V Bridge	和歌山	LeDucTri、玉置壮一朗、高橋泰道	辻原 治
29	大山に魅せられて...	米 子	中尾 旭、定岡真幸、松本勇氣、 森田大貴、鹿島孝政	松本幸大
30	砂丘と大山と汗とペダルと	米 子	坂根毎顕、坂本 亮、藤田尚志、 松本菜都美、竹田純平	稲田祐二
31	大蛇～ OROCHI	松 江	三野誠也、宮野雅也、近藤広和	浅田純作
32	レッド	呉	龍野友洋、石井はる香、和田小雪	富田英夫
33	Gimmick Arkade	徳 山	星出紘規、岡内 穂、石丸克法、 田村達矢、大田篤史	橋本堅一
34	トーナメント BRIDGE	徳 山	岡成信正、熊谷政男、小林俊介、 兼田雅史、田中智也	橋本堅一
35	Angle 45 Series, Model 2006	阿 南	廣瀬貴士、林 貴史	笹田修司
36	▽ (えにい)	阿 南	松野浩己、相原翔太、加賀谷俊介、 辻 佑太、河崎勇人	笹田修司
37	クロワッサン橋	高 松	池上奈々恵、佐野大介、細川恭平、 松岡睦雅、山下泰勲	太田貞次
38	眼鏡橋	新居浜	日越栄雄、八十島啓介	谷口佳文
39	Marvelo fArt	新居浜	村上友洋、高橋良太	谷口佳文
40	曲げウェイトレシオ	久留米	浜地 尚、牟田口隆介、清武康彦、 日隈淳志	原田豊満
41	はしむい～	久留米	緒方智博、二江貴也、三苦源治、 山田孝行	橋村真治
42	STB	有 明	山本笑太、黒木賢二、田中秀和、 砥綿祐太、目野主税	下田誠也
43	MANTABASHI	有 明	近藤竜也、下川紘子、前田友子	上原修一
44	KANAME 橋	八 代	遠坂真吾、寺下朋香、植田智子、ロン	岩坪 要
45	TRAPEZOID	都 城	飯野雄大、嶋田太一郎、南郷隼人、 迫田卓也	板倉和則
46	FINAL FORMATION	都 城	内村理美、吉行那穂子	小原聡司
47	ナチュラルハウトラス	鹿児島	下村香輔、村田友樹、LAI ZANITH	内谷保
48	たこ吊りアーチ	神 戸	浦山由祐、白川裕太、大橋 順、 垣内裕輝、柿谷茂貴	中西 宏
49	誠 ～ MAKOTO ～	近畿大	松下嘉明、山本 誠、永吉正樹、 守田浩、二島 公平	松岡良智
50	POTENTIAL	近畿大	大籠真也、清水良恵、西田和美、 上安秀明、井藤秀太	松岡良智

環境デザインコンペティション本選出場作品一覧

登録番号	作 品 名	高専名	学 生 氏 名	指導教員
E0005	Living with Fields	呉	富田雅俊	間瀬実郎
E0017	変わらない変化	呉	石井正人	富田英夫
E0023	PEOPLE LINK NATURE	石 川	二木みどり	金木 健
E0053	tree cycle humans cycle	岐 阜	大西裕太郎	藤田大輔
E0063	go. on	米 子	尾崎由佳里, 加納奈津子	熊谷昌彦
E0067	Salad bowl Villege	米 子	村上晴美	熊谷昌彦
E0088	パブリックヴェレッジー耕作放棄地再生計画ー	米 子	竹田純平	西川賢治
E0108	「シングルオフィス」若者の雇用斡旋による山あいの再生	米 子	藤原佑樹	西川賢治
E0131	山あいの多目的教室	明 石	牧 奈歩, 井上亮太, 菊池まさこ, 国居郁子, 福本遼	工藤和美
E0132	木こりの家家	明 石	木倉康智	工藤和美
E0133	みんなの庭道 + 。。。	明 石	宮本康平	八木雅夫
E0135	「Renovation the Closing of School」 ー廃校再計画ー	明 石	河西孝平	工藤和美
E0138	かみの灯	明 石	上月亮太	工藤和美
E0158	自分の町が好き	明 石	山下早紀	工藤和美
E0175	棚田 APART	明 石	尾崎恒亮, 黒田潤一, 桧垣正弘	工藤和美

プロポーザルコンペティション本選出場作品一覧

登録番号	作品名	高専名	学生氏名	指導教員
6	ばったりまったり	有明	神尾沙和、千光土あや、 野上綾子、松藤浩史	新谷肇一
8	光 hikari	サレジオ	森元由果、田中大、川尻愛、 佐藤直	竹内明
10	タングラム	サレジオ	岸田昌子、伊勢健人、佐藤愛、 茂木喜人	竹内明
11	SUN GALLERY	サレジオ	保刈純平、乙竹朝世、 田中小枝子、中野剛	竹内明
23	すぎ風呂つく (あしゆ)	明石	井上亮太、菊池まさこ、 国居郁子、福本遼	工藤和美
30	杉 薫る 千日の心	米子	道家早紀、井東来美、 松本慶太郎、井田蘭	西川賢治
41	人かご	米子	坂根每顕、吉田直之、 松尾勇右太、藤田尚志	熊谷昌彦
43	マチレゴ	豊田	中島優、上田琴恵、高木亮佑、 宮戸実	前田博子
47	grobe	豊田	本田和俊	三島雅博
51	簡素/壮大	豊田	前田太志	三島雅博
59	Human・Frame ～ ART S・Tree・Tあたたかい、 憩いの空間が在る～	阿南	吉田理代、石川絵梨、 吉岡大介	加藤研二
62	和飾 ～チラリズムとの融合～	都城	橋口寛人、坂本裕樹、 瀬之口祐一、吉田宗一郎	林田義伸

審査結果一覧

本デザインコンテストの審査結果の一覧を下記に示します。

【構造デザインコンペティション】

受賞名	高専名	学科名	作品名
最優秀賞 (文部科学大臣賞)	新居浜工業高等専門学校	機械工学科	Marvel of Art
優秀賞・特別賞 (日刊建設工業新聞社賞)	松江工業高等専門学校	土木工学科	大蛇 ～ OROCHI ～
優秀賞	米子工業高等専門学校	建築学科	砂丘と大山と汗とペダルと
佳作	福井工業高等専門学校	環境都市工学科	Trapezoid
	秋田工業高等専門学校	環境都市工学科	檜木内橋
	明石工業高等専門学校	建築学科	〇〇ツ丸見え

【環境デザインコンペティション】

受賞名	高専名	学科名	作品名
最優秀賞 (宮崎県知事賞)	明石工業高等専門学校	建築都市 システム専攻, 建築学科	山あいの多目的教室
優秀賞	呉工業高等専門学校	建築学科	Living with Fields
	明石工業高等専門学校	建築学科	みんなの庭道 + 。。。

*佳作：上記以外の本選出場作品 12 作品すべて

【プロポーザルコンペティション】

受賞名	高専名	学科名	作品名
最優秀賞 (都城市長賞)	明石工業高等専門学校	建築学科	すぎ風呂っく (あしゆ)
優秀賞	サレジオ工業高等専門学校	デザイン工学科	光 hikari
	都城工業高等専門学校	建築学科	和飾 ～チラリズムとの融合～
会場審査賞	有明工業高等専門学校	建築学科	ばったりまったり
	豊田工業高等専門学校	建築学科	マチレゴ

*佳作：最優秀賞および優秀賞を除く本選出場作品 9 作品すべて

(1) 経過

11月17日(金)

9:00~12:00

物品搬入、受付、展示ブース、競技設備、スクリーンの設営

12:00

昼食

14:00

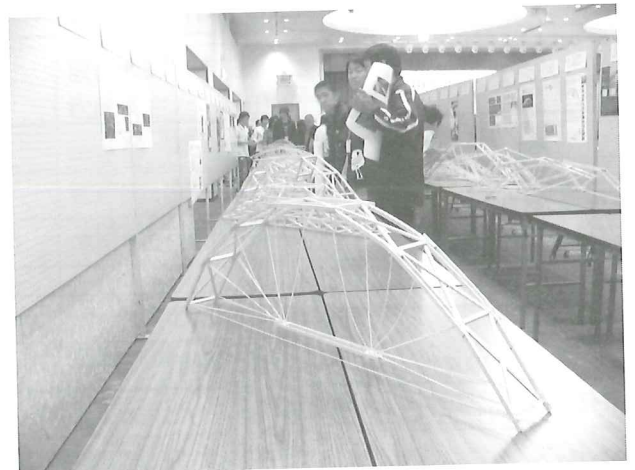
構造デザコンの受付

・計量・計測

質量と寸法の計測(出場チーム立会の下)

展示ブースに製作物とプレゼンテーション用紙の展示

全チーム受付終了



15:30~16:30 オリエンテーション

<内容>・競技ルールの説明

・スケジュールと会場配置図の確認

・架台、錘の種類、製作物の設置方法の手順の説明

・安全対策、諸注意

・載荷器具の取り付け方法の実演

<質疑>・載荷について

①載荷用の棒に中心線が入っているのか

②載荷台に付属しているアングルが載荷の邪魔になるので
取り外すことができないのか

③初期載荷時に構造物の位置がずれたら修正してよいのか

・安全性について

①安全靴が必要ではないのか

(全体行事)

17:00~17:30 開会式

17:30~18:45 ウェルカムパーティ



19:00~20:30 競技会場準備

20:30 解散

11月18日(土)

8:15

集合、会場確認

8:30

審査員到着

控え室にて審査方法等の確認・打ち合わせ

8:45

司会者到着

競技進行の打ち合わせ

9:15

開場、競技準備

9:30~11:40

本選競技

11:40~12:30

昼食休憩

12:30~16:00

本選競技(続き)

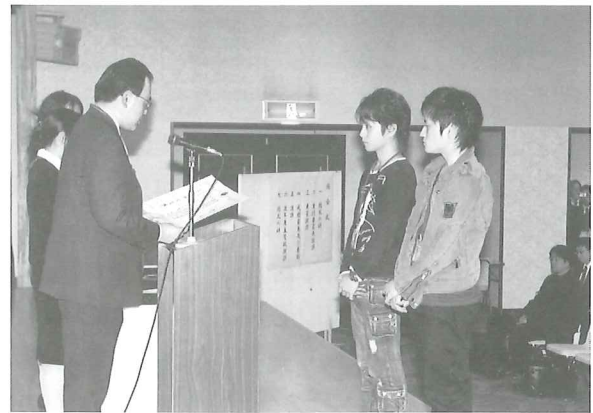


16:00~16:45 審査まとめ

(全体行事)

16:45~17:00 閉会式準備

17:00~17:30 閉会式・表彰式



(2) 講評

2006. 12. 28

全体についての講評

ブリッジコンテストという視点から、まず、過去に建設された「橋」が思い浮かぶ。ローマやオスマントルコ時代の石造の橋、熊本・大分など九州に多い石橋、巧みに木を組み合わせた錦帯橋、木の桁を組み合わせた京都の渡月橋、セーナ川に架かるアールヌーボー調のポンデザール、ブルックリン橋のような古典的な吊橋、シドニー湾入り口にかかるアーチ状トラスのハーバーブリッジ、本四連絡橋に見られる吊橋や斜張橋、バスケットハンドルタイプのアーチ橋などである。

橋に似た構造として、建築では、屋根に使われる大スパン構造の仲間として「アーチ」、「張弦はり」、「サスペンアーチ」、「テンセグリティ」、「ドーム」などがある。1900年の初めにはガウディによる懸垂線による構造、1960年代以降では懸垂面形状を利用したイスラーのRC屋根構造なども大スパン構造の仲間である。

建築、土木分野に限らず、それぞれ歴史あり、人々がそれぞれの社会基盤を構成するために築いてきた優れた実績であり文化遺産でもあり、建設に携わったひとびとの息吹が、静かであるが、ほとぼしり、「橋を見る」ことに喜びが感じられる。今回のブリッジコンテストには「熱意と技術の結晶」の50作品が出された。限られた質量の材料（木、竹、糸、接着材）を利用した、スパン100cmの橋模型であるが、制限された条件

での製作であるからこそ、かえって、参加学生の情熱、創意工夫が審査会場に全体にみなぎっていた。本物の橋を見るがごとくに、審査よりも、むしろ「橋を見る」楽しみが先になるような感動の作品群であった。

今回のコンペは、「両端が単純支持」（自己釣り合い形態、自碇式形態）、長さが100cm・高さが100cm以内で、使用材料の質量が200g以内に限定されているが、変化に富んだ「橋」が提案されていた。スパン（支点間距離）と載荷点が同一で、使用材料が制限されている場合、(a) 梁としての有効デプス（有効橋高さ）を大きくすれば、耐力が向上する。(b) 同じ形状であれば、耐力を出すには、余すことなく材料をぎりぎりまで有効に使いきる、(c) 材料は分散使用すれば断面性能が低下するので、集中的材料使用が望ましい、(d) 座屈が問題になるなら、断面2次半径を大きくする、有効座屈長を低減する、(e) 部材の引張耐力が十分にあれば吊構造として荷重を支持する方式を採用する、かつ、圧縮部材の数を少なくし、圧縮部材の細長比を小さくする、(f) 部材としての圧縮や引張耐力が十分にあれば、接合部の強弱で耐力が決定される。学生の模型には、これら基本原則がほぼ適用されていた。作品によっては、デプスが小さいものもあり、少ない材料で耐力の高い橋をめざそうとしたものも見られたものの、部材や接合部等の耐力が期待できず、小さな荷重で崩壊したものも散見された。糸や木材が引張に強い材料であることを考えると、接合部設計は相当に重要な課題になっていた。しかし、デプスが小さく耐力が小さいもののなかに、「橋」の魅力を感じさせるものも多くあった。

耐力の大きな作品は、大きく2種類に分類できそうである。ひとつは、(あ)古典的な形態であるが、上に反ったアーチ橋で、圧縮材であるアーチ材の座屈を数本の部材で座屈補剛をしたような形態のもの、座屈補剛材は載荷で引張が作用するような配置であり、もうひとつが、(い) 水平な上弦面に圧縮材を集中して設置し、2点載荷に対応して自然に形成される指力線状に糸を配し、直接支持端に荷重を伝達させたものである。両者とも、接合部は念入りに接着されていたはずである。他の多くは、これら両者の特徴を併せもつような形状が多いように感じられた。良質の構造形式が探索できれば、できるだけ多くの材料を使えば耐力は増加するので、200gの材料を使いきるのが得策である。したがって、実験結果からも判断できるように、審査基準（後述）の①と②の獲得点の結果は、ほぼ同じとなった。審査基準の①と②は、より大きな、あるいは、より効率的な「橋」を作るうえで欠かせない判断基準であり、審査基準（後述）の③は、技術・工学としての信頼性を高め、無駄なく安心して「橋」を作るうえで欠かせない基準である。ともに、長い経験と、工学の正しい適用から可能となるもので、今回の審査の基本事項として事務局で設定されたものである。

多くの作品を拝見して、「頼もしい技術者が育っている、現場での活躍が大いに楽しみである」が、今回の講評の最終結論です。後述の審査基準基準にしたがって採点がされましたが、採点結果にとらわれることなく、高専生の皆様が将来を見据えて活躍されるのを期待します。

（代表記 加藤史郎）

〔講評：宮崎大学工学部土木環境工学科 教授 原田隆典〕

感想：最も驚かされたことは、同じ条件下で製作された模型の橋の実耐荷力が20～400キログラム重と20倍の幅があったことである。「構造」、「部材」、「接合」の3つの要素をいかに配置し、工夫し、組み建てるかで20倍もの違いがでたのである。力学の知識に基づき、3要素の調和に成功すると最高の耐荷力が得られる。逆に、1箇所の弱点が耐荷力低下の致命傷になることがある。3要素の調和は、力学の知識だけでは駄目で、学問的知識に基づいて実験を何度も繰り返すことによってのみ実現できるものと思われる。技術とは、「学問的知識」と「実験の繰り返し（失敗の積み重ね）」が結実することによって生み出されるノウハウ（術）に支えられるものである。

今回、出展された全ての作品からは、若い技術者の情熱を感じさせられた。運悪く思うように荷重が分散できずに低い耐荷力で壊れたもの、高い耐荷力であったが、構造が単純すぎるもの、耐荷力は大きくはないが、存在感のあるもの、と多様で興味深いものばかりであった。いずれも甲乙つけがたいすばらしい作品ばかりで、若者もやるじゃないかという一面を見せていただいた1日であった。

〔講評：豊橋技術科学大学工学部 建設工学系 教授 加藤史郎〕

建築分野では、「形は機能に従う」という1面があります。「橋」は、河川などの障害を越えて、人や車、物を、向こう岸に渡す機能がある。短い橋もあれば、長い橋もある。多分、このコンペでは、長い大きな橋が基本テーマにあるかと思って審査に当たりました。ただし、橋の景観は昔から大きな要因になっており、川岸や川中から見たイメージも想像して模型を見たりもしました。アーチ状、扇状、張弦はり状、トラス状のものなど、古典的なもの、芸術的な繊細な形状など、魅力のある形態がそろい踏みしているのは、壮観でした。基本的には、路面や屋根の荷重をどのように両端に的確に伝達するかが構造形態に関係し、これが形態を左右する大きな要因ですが、「実現性の高い形態か」、路面を移動する人や車が橋を渡るときに、「もし実現したら、楽しくなるような形態かどうか」に焦点を絞りましたが、それぞれに特徴があり、全体としては「優秀つけがたし」、「高専生のデザイン力の秀抜さ」を感じた次第です。

〔講評：長岡技術科学大学工学部 環境・建設系 教授 長井正嗣〕

出来栄への見事な作品がほとんどで大変感心しました。模型の細部の「作り」を中心に審査しましたが、いずれも甲乙つけ難く、多くの作品が高得点となりました。また、一部の作品について、更に高い点数をつけました。木製の模型の強度を競う場合、接着材そのものの強度評価は困難ですが、継手部の設計が重要な役割を果たすと考えられます。継手部の強さが橋全体の強度に大きな影響を与えると考えるからです。また、継手部での構造の対称性が重要で、部材に伝達される力（部材力や内力）に偏心が生じないように心がける必要があります。その意味で、主には継手部に着目して評価をしました。難しい判断の中で、一部の模型について高得点を与えましたが、それ以外の模型もそれぞれにレベルの高いものでした。高専生の優秀さを改めて感じました。

〔審査基準〕 デザコン事務局から事前に手渡された審査基準は、① 耐力の最大を規準とする評価で、 $20 \text{点} \times (\text{チームの実耐荷質量}) / (\text{全チームの実耐荷質量の最大})$ 、② (耐力 / 使用材料の量) を規準とする評価で、 $20 \text{点} \times (\text{チームの比耐荷質量}) / (\text{全チームの比耐荷質量の最大})$ 、ただし、(比耐荷質量) = (実耐荷質量) / (質量)、③ 耐力の予測確度を規準とする評価で、 $20 \text{点} \times (\text{チームの予測確度の絶対値})$ 、ただし (予測確度) = (耐荷予測値 - 実耐荷質量) / (実耐荷質量)、の3点についてそれぞれ20点の配分、および、④ 審査員3人で40点の配分であった。審査員3人の40点については、その基準については、特に事前には連絡は無かった。

都城に来る前には製作された模型についての情報は全く無く、3人は模型を見た瞬間に大変な責任を負わされたと感じた。また、審査員の40点についての審査基準は、審査員の判断にゆだねると、その場で事務局から聞かされた。審査をするからには、11月18日の朝、3人が顔合わせしたとき、急遽その場で相談し、(あ：構造的性 / 原田担当)、(い：形態 / 加藤担当)、(う：つくり、作りこみ / 長井担当)、(え：特記事項 / 全員) の4点に配慮して採点することとした。特記事項については、各作品について審査員の合議で決めた。実際に審査して、改めて感じたが、短い時間で50個の模型を観察するのは相当に努力と注意を必要とした。特に、高専生の情熱と気魄の籠もった作品を評価するからなおさらである。これは、審査員が共通して体験したことである。 (代表記 加藤史郎)

〔あとがき〕 事務局の綿密な計画の下に、「橋作り」を技術的に科学的に楽しむ企画が無事終了しましたが、この企画を実施された事務局のみなさんに敬意を表します。今後とも、高専生の活力を引き出すこのような企画が継続されることを期待して報告を終わります。

(代表記 加藤史郎)

(3) 入賞作品 ～競技風景～



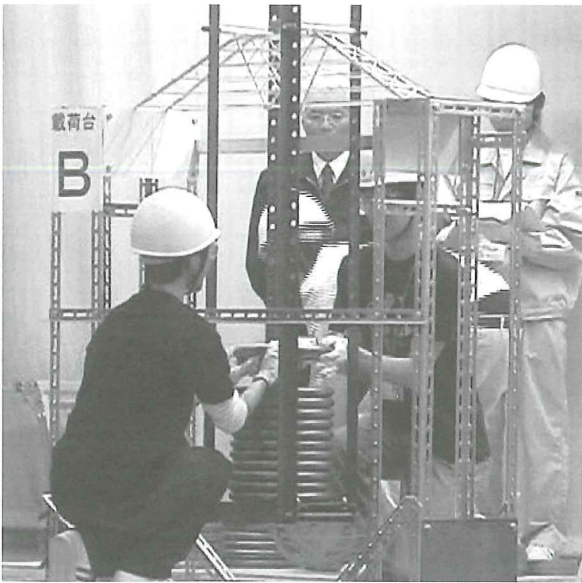
最優秀賞（文部科学大臣賞） 新居浜高専・機械工学科
チーム名：グランドスラム 作品名「Marbel of Art」



優秀賞・特別賞（日刊建設工業新聞社賞） 松江高専・土木工学科
チーム名：IZUMO あそばあ～ず 作品名「大蛇～OROCHI～」



優秀賞 米子高専・建築学科
 チーム名：米子高専 A
 作品名「砂丘と大山と汗とペダルと」



佳作 福井高専・環境都市工学科
 チーム名：5B
 作品名「Trapezoid」



佳作 秋田高専・環境都市工学科
 チーム名：akt - G
 作品名「檜木内橋」



佳作 明石高専・建築学科
 チーム名：パラパラムービー同好会
 作品名「〇〇ツ丸見え」

全国高専デザインコンペティション 2006 in 都城
構造デザインコンペティション「ブリッジコンテスト」

結果一覧

得点1: 20点 × チームの実耐荷質量 / 全チームの実耐荷質量の最大値
得点2: 20点 × チームの比耐荷質量 / 全チームの比耐荷質量の最大値
但し、比耐荷質量 = 実耐荷質量 / 質量とする
得点3: 20点 × (1 - チームの予測精度の絶対値)
但し、予測精度 = (耐荷予測値 - 実耐荷質量) / 実耐荷質量とする
得点4: 40点 3名の審査員の評価

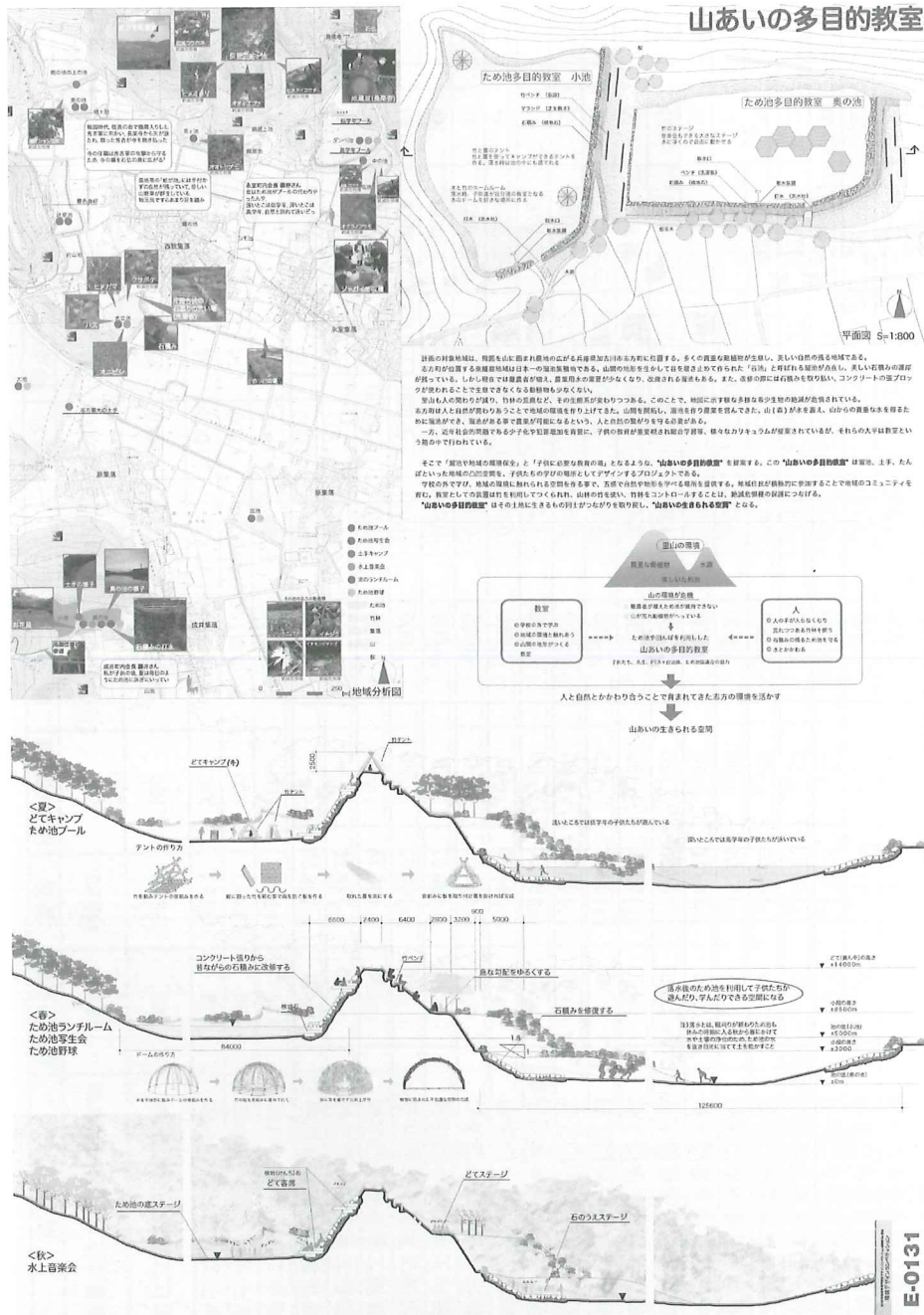
エントリー番号	作品名	高専名	耐荷予測値	質量	実耐荷質量	得点1	得点2	得点3	得点4	合計	総合順位	備考
S036	Marvel of Art	新居工業高等専門学校	250	198.85	250	12.500	12.137	20.000	36	80.637	1	最優秀賞 (文部科学大臣賞)
S039	大蛇~OROCHI~	松江工業高等専門学校	180	175.93	290	14.500	15.913	12.414	35	77.827	2	優秀賞・特別賞 (日刊建設工業新聞社賞)
S037	砂丘と大山と汗とペダルと	米子工業高等専門学校	330	193.87	330	16.500	16.432	20.000	24	76.932	3	優秀賞
S038	大山に魅せられて...	米子工業高等専門学校	330	193.07	400	20.000	20.000	16.500	14	70.500	4	賞を辞退されました。
S011	Trapezoid	福井工業高等専門学校	120	197.81	180	9.000	8.784	13.333	31	62.117	5	佳作
S005	檜木内橋	秋田工業高等専門学校	58	193.38	58	2.900	2.895	20.000	36	61.795	6	佳作
S031	〇〇ツ丸見え	明石工業高等専門学校	75	184.49	70	3.500	3.663	18.571	35	60.734	7	佳作
S007	ガウディの橋	宮城工業高等専門学校	180	199.65	180	9.000	8.703	20.000	22	59.703	8	
S027	V Bridge	和歌山工業高等専門学校	200	189.88	300	15.000	15.252	13.333	14	57.585	9	
S033	V(えいにい)	阿南工業高等専門学校	36	193.04	36	1.800	1.800	20.000	33	56.600	10	
S019	橋元さん	長野工業高等専門学校	80	190.74	80	4.000	4.049	20.000	28	56.049	11	
S016	ヤナコジ・アーチ	小山工業高等専門学校	94	198.00	104	5.200	5.071	18.077	27	55.348	12	
S030	友情の架け橋	明石工業高等専門学校	70	198.00	130	6.500	6.338	10.769	31	54.607	13	
S022	PENTAGON	豊田工業高等専門学校	170	195.30	120	6.000	5.931	11.667	31	54.598	14	
S012	Maximum 6	福井工業高等専門学校	80	192.31	77	3.860	3.865	19.221	27	53.946	15	
S046	STB	有明工業高等専門学校	55	193.43	55	2.760	2.745	20.000	28	53.505	16	
S044	曲げウェイトレジオ	久留米工業高等専門学校	80	199.83	71	3.560	3.430	17.465	29	53.455	17	
S003	古代兵器ブルトン	函館工業高等専門学校	30	196.99	28	1.400	1.372	18.571	31	52.343	18	
S020	倒れちや阿寒湖のまりも!	長野工業高等専門学校	80	196.18	120	6.000	5.905	13.333	25	50.238	19	
S015	五人目の戦士	小山工業高等専門学校	120	192.53	90	4.500	4.513	13.333	27	49.346	20	
S013	特急はやぶさ2006系	石川工業高等専門学校	45	184.92	35	1.760	1.827	14.286	31	48.873	21	
S032	Angle 45 Series.Model 2006	阿南工業高等専門学校	54	196.42	54	2.700	2.654	20.000	23	48.354	22	
S006	CLOWN CROWN	秋田工業高等専門学校	35	177.57	31	1.560	1.685	17.419	27	47.664	23	
S017	未知との遭遇	群馬工業高等専門学校	55	198.30	45	2.260	2.191	15.556	27	47.007	24	
S004	ハンカチ橋	八戸工業高等専門学校	150	195.85	110	5.500	5.422	12.727	23	46.649	25	

エントリー番号	作品名	高専名	耐荷予測値	質量	実耐荷質量	得点1	得点2	得点3	得点4	合計	総合順位	備考
S049	FINAL FORMATION	都城工業高等専門学校	130	193.47	80	4.000	3.992	7.500	31	46.492	26	
S009	橋子	福島工業高等専門学校	57	196.02	45	2.260	2.216	14.667	27	46.143	27	
S040	レッド	呉工業高等専門学校	200	185.56	120	6.000	6.243	6.667	27	45.910	28	
S026	誠 ~MAKOTO~	近畿大学工業高等専門学校	52	196.30	40	2.000	1.967	14.000	23	40.967	29	
S025	POTENTIAL	近畿大学工業高等専門学校	52	193.65	40	2.000	1.994	14.000	21	38.994	30	
S035	眼鏡橋	新居浜工業高等専門学校	180	121.14	60	3.000	4.781	0.000	31	38.781	31	
S023	バナナ橋	岐阜工業高等専門学校	140	194.02	60	3.000	2.985	0.000	31	36.985	32	
S018	Space MAQUIA	群馬工業高等専門学校	55	191.24	35	1.760	1.767	8.571	23	35.098	33	
S010	HOT 1号	長岡工業高等専門学校	170	173.16	50	2.500	2.787	0.000	29	34.287	34	
S029	たこ吊アーチ	神戸市立工業高等専門学校	90	198.83	50	2.500	2.428	4.000	25	33.928	35	
S034	クロワッサン橋	高松工業高等専門学校	75	189.69	40	2.000	2.036	2.500	27	33.536	36	
S014	剛	石川工業高等専門学校	150	193.09	80	4.000	4.000	2.500	23	33.500	37	
S045	MANTABASHI	有明工業高等専門学校	40	189.10	20	1.000	1.021	0.000	31	33.021	38	
S024	pupa	岐阜工業高等専門学校	120	190.30	20	1.000	1.015	0.000	31	33.015	39	
S021	なんちゃって橋	豊田工業高等専門学校	170	195.18	50	2.500	2.473	0.000	27	31.973	40	
S041	トーナメント BRIDGE	徳山工業高等専門学校	70	199.11	25	1.260	1.212	0.000	29	31.472	41	
S047	KANAME橋	八代工業高等専門学校	40	198.07	20	1.000	0.975	0.000	27	28.975	42	
S043	はしむい~	久留米工業高等専門学校	120	196.00	30	1.500	1.478	0.000	25	27.978	43	
S002	格子橋	釧路工業高等専門学校	55	191.90	0	0.000	0.000	0.000	27	27.000	44	
S001	トラス第3号	釧路工業高等専門学校	45	197.05	0	0.000	0.000	0.000	23	23.000	45	
S042	Gimmick Arkade	徳山工業高等専門学校	75	199.67	0	0.000	0.000	0.000	21	21.000	46	
S008	誤差0.3%	宮城工業高等専門学校	150	183.63	20	1.000	1.051	0.000	14	16.051	47	
S050	TRAPEZOID	都城工業高等専門学校	200	196.74	20	1.000	0.981	0.000	14	15.981	48	
S028	ラッキースターブリッジ	舞鶴工業高等専門学校	205	729.26	-	-	-	-	-	-	-	質量オーバーのため失格
S048	ナチュラルハウトラス	鹿児島工業高等専門学校	50	199.55	-	-	-	-	-	-	-	スパン不足のため失格

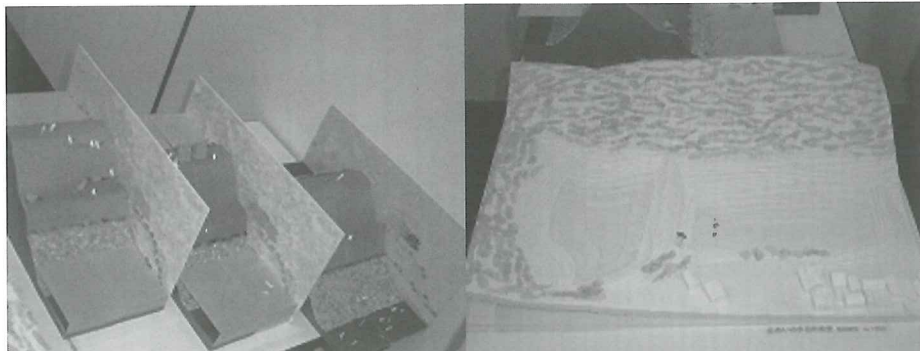
環境デザインコンペティションの経過および審査結果

最優秀賞 (宮崎県知事賞)

E0131, 山あいの多目的教室, 明石高専, 牧 奈歩, 井上亮太, 菊池まさこ, 国居郁子, 福本遼



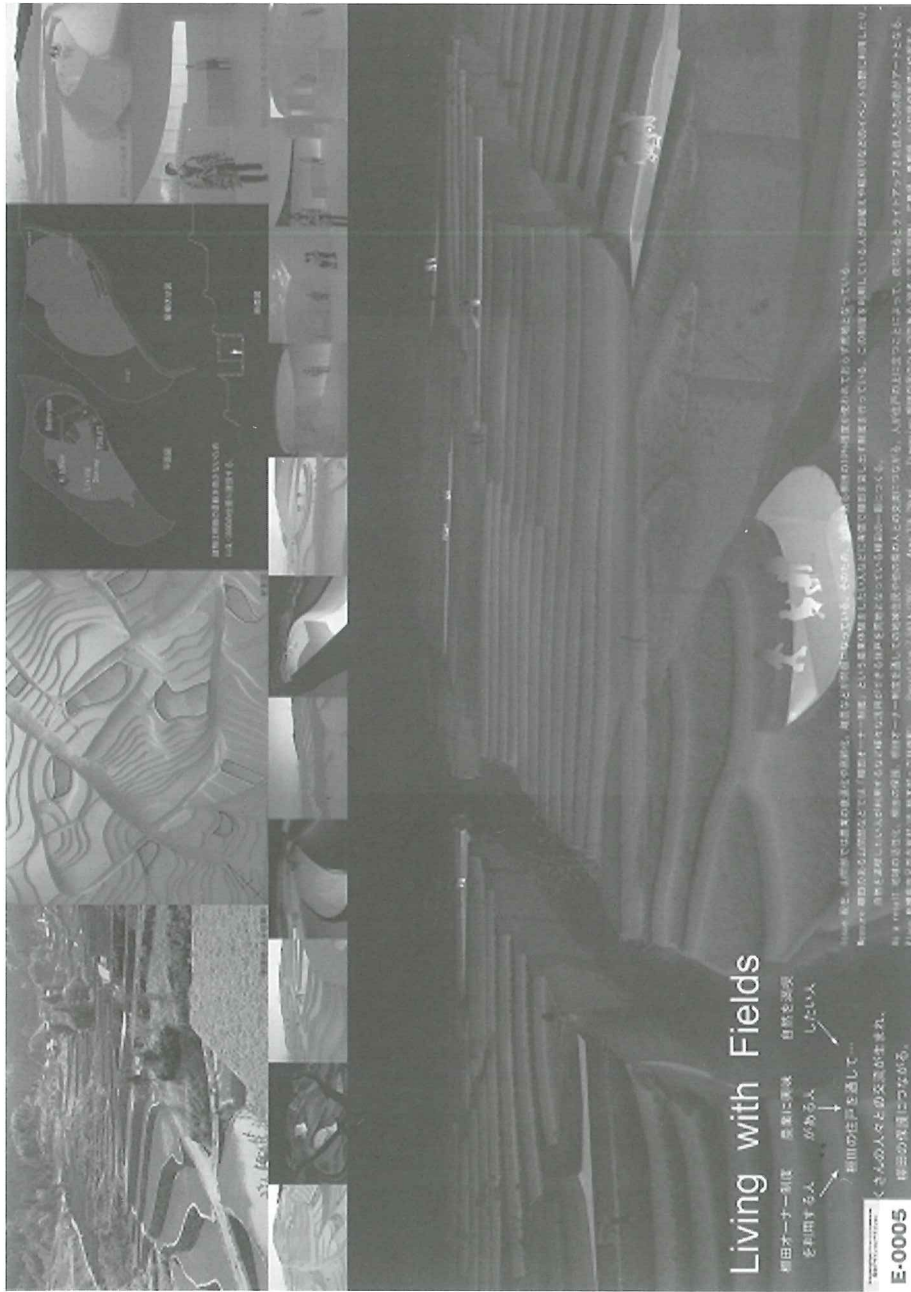
図面



本選 模型

優秀賞

E0005 , Living with Fields, 吳高専, 富田雅俊



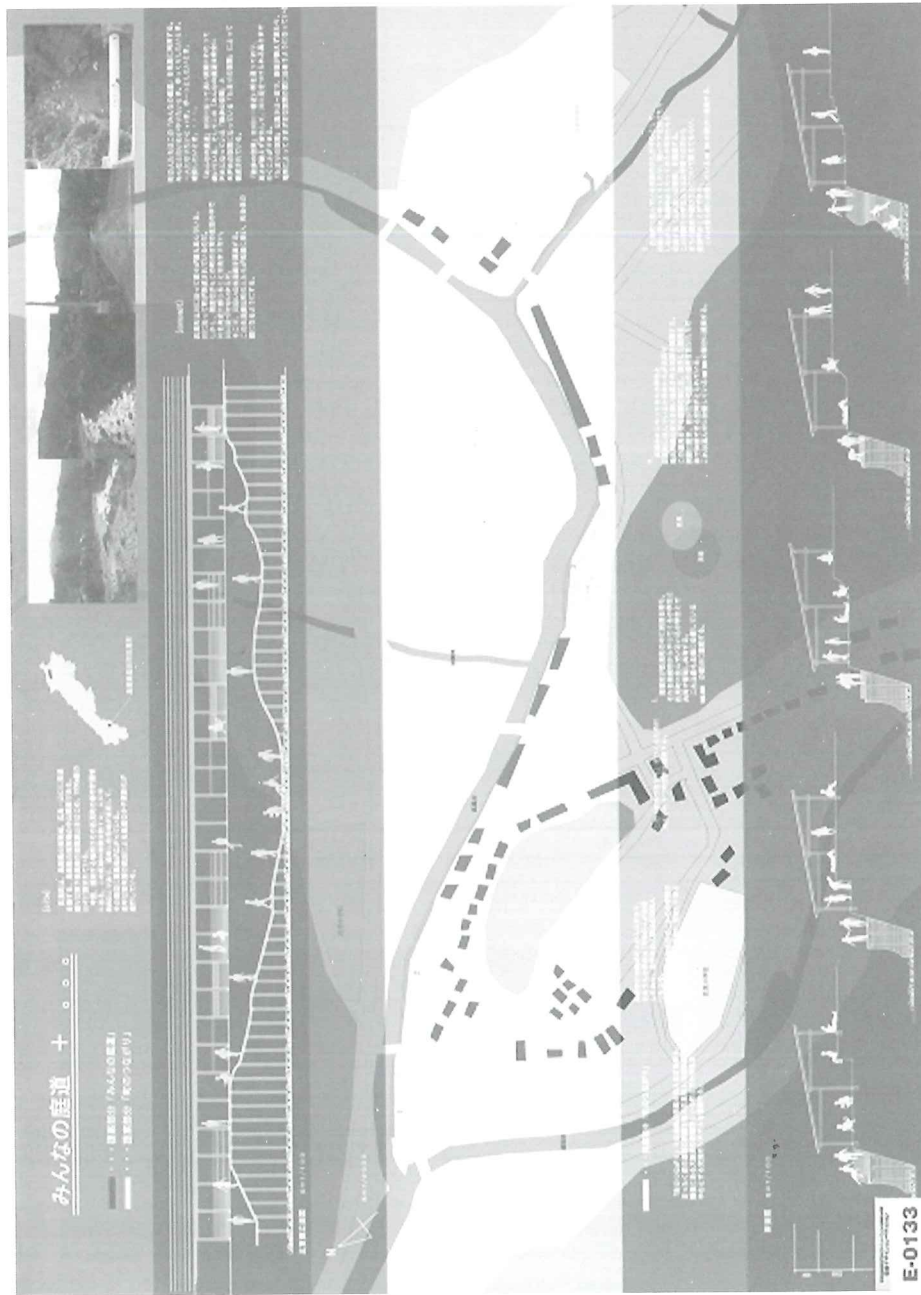
本選 模型

図面

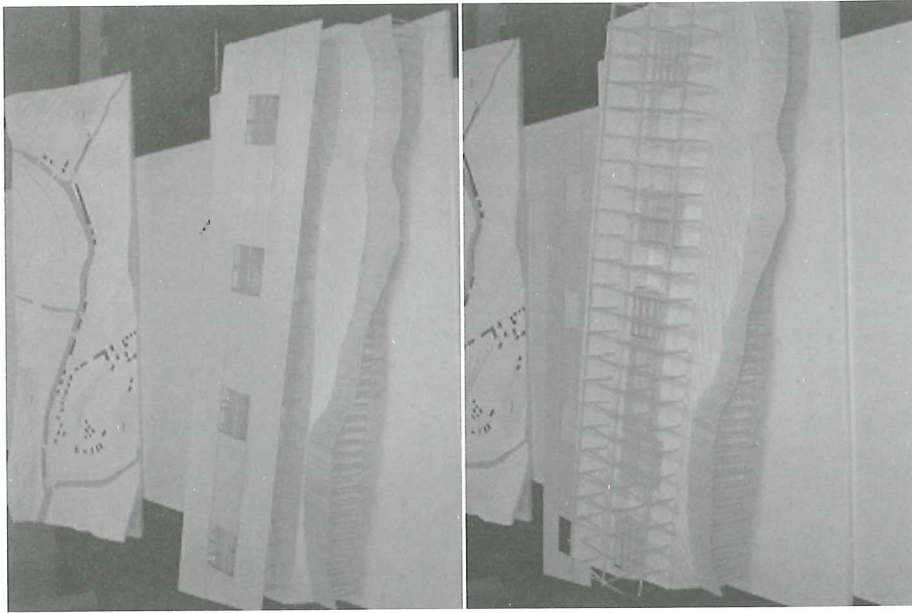


優秀賞

E0133, みんなの庭道 + 〇〇〇, 明石高専, 宮本康平



図面



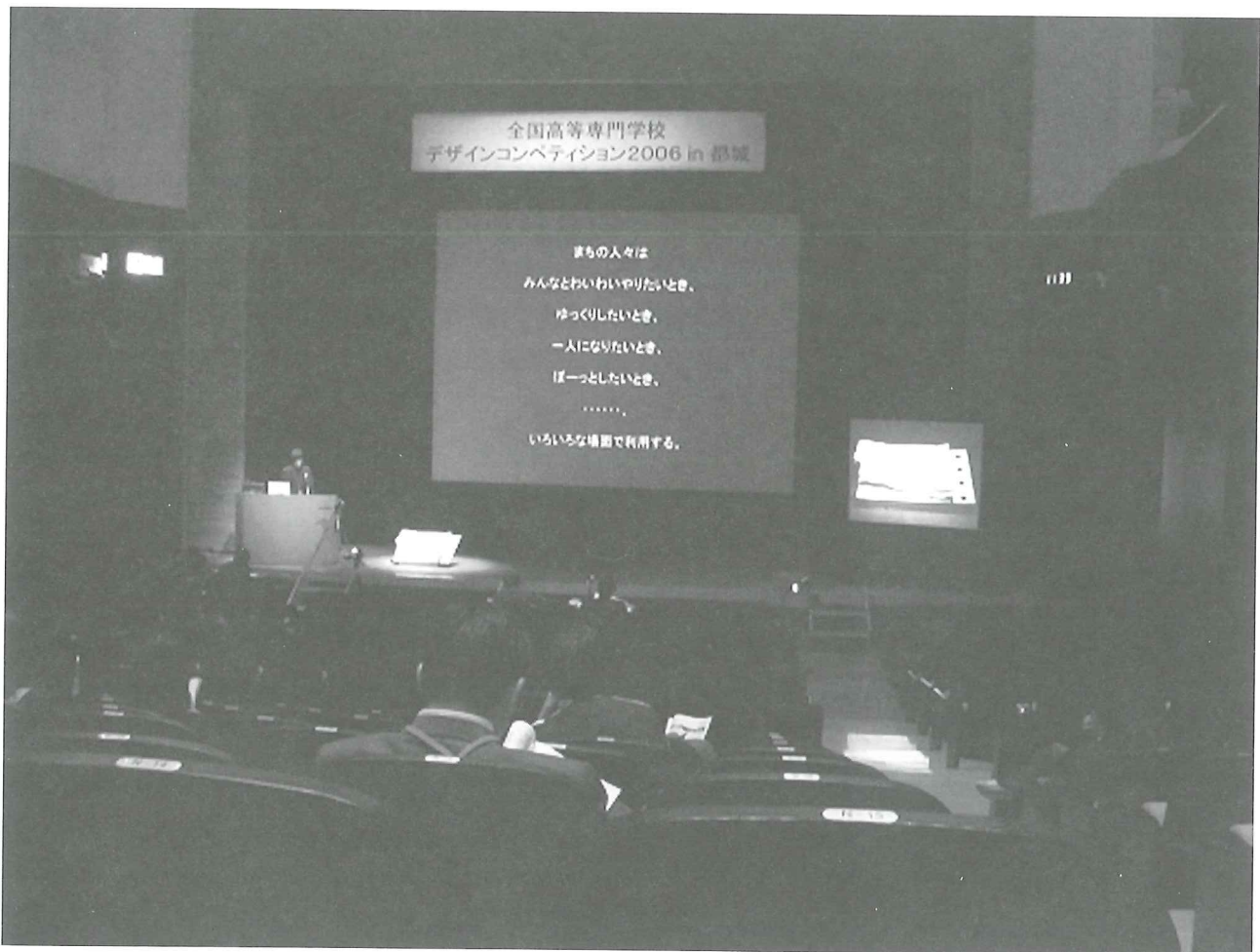
本選 模型

1. 概要

応募総数 185 作品の中から、2 人の審査員によって予選で選ばれた 15 作品が本選に出場しました。本選は、11 月 18 日土曜日の午前中に交流プラザ 2 階 ムジカ・ホールにおいて発表及び質疑応答、同日午後には同 1 階茶霧茶霧ギャラリーにおいて、展示したプレゼンテーションポスターおよび模型の前で審査員が巡回する形でのポスターセッションが行われました。ポスターセッションの終了後、審査員の協議によって入賞作品が決定されました。最後にムジカ・ホールで審査結果の発表および講評が審査員から述べられました。



予選審査風景



本選 プレゼンテーション会場風景

2. 審査講評

(1) 全体の講評と審査結果（竹下審査委員長）

共通的に感じたことは、フィジカルな提案と同時に社会的な提案をいただきました。若い方の独創的な提案に、経済的、社会的なプログラムとして提案していただきました。これは私にとりまして大変魅力的に感じました。今、計画力が問われていますので、皆さん方は十分に計画力をもたれていると思いましたが、ただ少し残念なことがありましたので、あとで発表させていただきたいと思います。今回のテーマは山あいが持っている自然的なとつてもすばらしい魅力の一方で、他方では社会的な条件で人口が減ったりお年寄りが多くなったり、あるいは若い人が減ったり雇用がなくなったりと人間の社会的側面に対比すると非常に矛盾が拡大するという本当に難しいテーマでした。

今回の提案に質的な差ができました。その差の原因は、私は調査にあるのではないかなと思いました。ひとつは現地でフィールドワークを行って自分の眼で確かめ自分の肌で感じ観察をちゃんとしたかどうか、二番目に集落の人に話を聞いたりあるいは役場の人に話を聞いたりしてヒアリングをやっている意見を集約したかどうか、それから三番目にさらにそれを持ち帰って学校のほうでインターネットや文献などいろいろな情報を得てそれを素材にして議論をしたかどうか、そのあたりで提案の差がついたのではないかなと思っております。

さきほど申しました残念なことの一点は、社会的な提案は非常に良かったと思いますが技術的な提案がちょっと弱かったように感じました。大変難しい課題なので社会的、経済的にどうかというところに皆さんが注目したと思いますが、建築は、最後は技術で答え、ものづくりとして、形をつくるのが重要ですので、この提案が少し欠けてしまうと、どうしても評価がさがってしまうというところがありますから、これは今後の宿題としてお受け取りしていただきたいと思います。

さて私のほうから発表させていただいて、そののち石田先生のほうから各作品に対する講評を頂きたいと思っております。

それでは 15 作品の本選でプレゼンテーションしていただきました作品から、実は審査でもめまして最初の段階で 6 作品浮かび上がりましたのでそれを発表させていただきます。

6 作品は最初番号順に発表させていただきます。

まず、E0005 番の呉高専の富田雅俊君から提案されました「Living is Field」、E0088 番の米子高専の竹田純平君から提案されました「Public Village」、E0131 番の明石高専の牧 奈歩さん他から提案されました「山あいの多目的教室」、E0132 番の明石高専の木倉康智君から提案されました「木こりの家」、E0133 番の明石高専の宮本康平君から提案されました「みんなの庭道+。。。」、E0138 番の明石高専の上月亮太君から提案されました「かみのあかり」が残りました。

この段階で優劣がつきがたいところもあろうかと思いますが、賞の制約があります。その結果、最優秀賞は、明石工業高等専門学校学校の牧 奈歩さん他の「山あいの多目的教室」、優秀賞は、呉工業高等専門学校学校の富田雅俊君の「Living is Field」、明石工業高等専門学校学校の宮本康平君の「みんなの庭道+。。。」、以上 3 つの作品を優秀及び最優秀として選考いたしました。

(2) 各作品に対する講評 (石田審査員)

最終的に残った提案はユニークな提案で価値の高い提案だったのですが、最終的な判断のところでは如何に技術的なところ、建築的な表現あるいは空間のポエティックな部分をトータルな判断材料として選出されました。(写真はポスターセッション風景)

最優秀賞 (宮崎県知事賞)

E0131, 山あいの多目的教室, 明石高専, 牧 奈歩, 井上亮太, 菊池まさこ, 国居郁子, 福本遼

グループワークということもあって、個人の提案よりは圧倒的にデータ量の層の厚さが抜群でした。特に日本の特有の季節変化の中でため池の環境を、通常、陸から環境を提案するわけですが、この作品では水環境と陸環境を等価に捉えて時関係で動的な要因をベースに非常に包括的な環境デザインを提案されたことが高く評価されました。大学のレベルと比較しても勝るとも劣らない提案でした。

優秀賞

E0005, Living with Fields, 呉高専, 富田雅俊

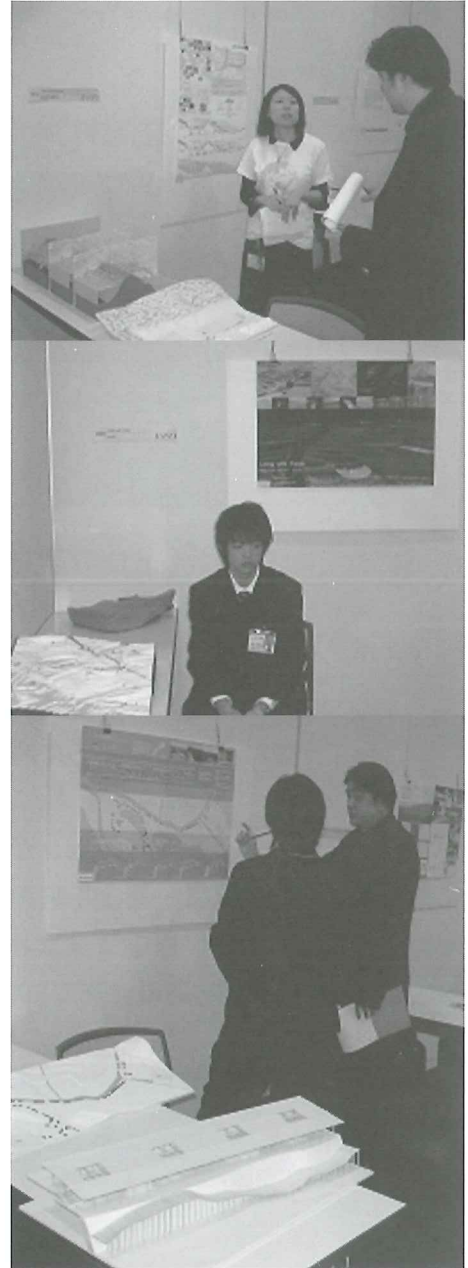
空間のデザインでポエティックな表現、空間のイメージを大変インパクトのあるプレゼンテーションが最終的に高く評価されました。ただし棚田の水を供給するインフラの技術的な問題など若干何点かの未解決の部分が残されていることを指摘しておきます。

優秀賞

E0133, みんなの庭道 + 。。。, 明石高専, 宮本康平

川のせせらぎの部分からみんなの憩いの部分、環境教育的な施設の断面まで含まれた、ユニークな断面連続的な空間の提案が評価されました。

図面の道路のスケールなど把握できない部分もありましたが、パネルディスカッションの段階で話を伺うと細かい提案がなされていたので高い評価を致しました。



E0088, Public village –耕作放棄地再生計画–, 米子高専, 竹田純平

先端的な建築表現が今回のなかで最も優れていたことが高い評価を受けました。技術的などところで若干の疑問が残りました。



E0132, 木こりの家家, 明石高専, 木倉康智



伝統的な建造物のフィールド調査を通してパターンランゲージの形で挿入しそれを屋根の造形としてデザインされ、ソフィストケーとされたデザイン操作がなされていました。また3Dの模型としても非常にうまく表現されていたので高い評価を受けました。ただ動線空間の表現などがあればもっとよくなるのではないかと思います。

E0138, かみの灯 –Kami no Hi–, 明石高専, 上月亮太

ポエティックな提案でプレゼンテーションなども美しく高い評価がありました。

あとは自ら実践していただいて、プロセスをドキュメンテーションしていただけると、さらに説得力が高まるのではないかと思います。

プロセスドキュメンテーションがこらからの課題として大いにありえるのではないかとして6選の中に入りました。



(以上の6作品が、本選の審査において6選として特に評価されました。)



E0017, 変わらない変化, 呉高専, 石井正人

都市・農村モデルの双方向性という点でユニークな提案として高い変化がありましたが、都市型モデルでさらにユニークな提案が考えられるのではないかと思いますという評価です。



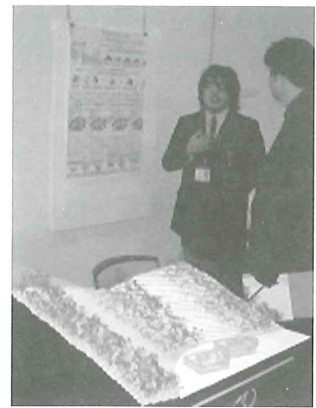
E0023, PEOPLE LINK NATURE, 石川高専, 二木みどり

ひな壇造成された景観において、2mの段差を有効に使い、景観を取り入れられるような視線の操作をしている点が高く評価されました。今後、南面や北面、道路を挟んだ隣接関係などの提案があればよいのではないかと思いますという評価です。

E0053, tree cycle humans cycle, 岐阜高専, 大西裕太郎

社会的なアプローチが際立った提案で我々も考えさせられる提案でした。

ただ最終的に空間の環境デザインコンペとしてもう一步進んだ提案が考えられるのではないかという評価でした。



E0063, go・on, 米子高専, 尾崎由佳里, 加納奈津子



異質な箱を農村集落に置いて新たな情報を発生させる装置を提案することが評価されました。情報の質が比較的単一で、さらに多方向、双方向性の情報操作によってまた装置が活かされるのではないかという評価がありました。

E0067, Salad bowl Village, 米子高専, 村上晴美

「サラダ」のコンセプトがユニークで高い評価がありました。ただ本選のプレゼンテーションを含めた具体的な提案で、色々なマネージメントに関する「ドレッシング」の部分で他の提案も考えられるのではないかという評価でした。



E0108, 「シングルオフィス」 若者の雇用斡旋による山あいの再生, 米子高専, 藤原佑樹

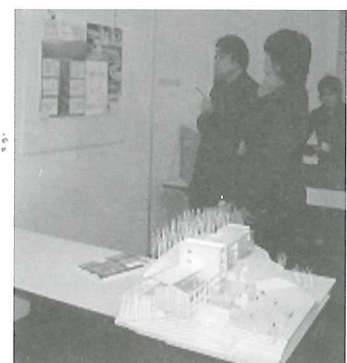


次世代型のニュースモールオフィスとしての時勢を得た提案で高く評価されましたが、具体的な建築的な提案で予選からの前進が見られなかったところが惜しまれます。

情報とハードウェアとしてのスモールコンパクトオフィスの関係をさらに考えていただくとよりリアルな提案ができるのではないかという評価がありました。

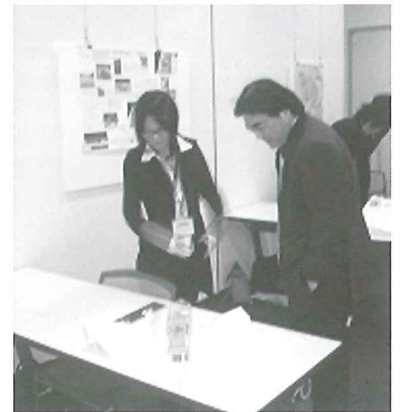
E0135, 『Renovation the Closing of School』 - 廃校再計画 -, 明石高専, 河西孝平

小学校の転用も時代のテーマですが、その転用の点をリノベーションに結び付けている点が評価されました。提案の中では今後のという時事関係に対する提案でしたが、その学校で生徒として生活した記憶の継承としての過去の時事関係に対する提案もあったのではないかという評価でした。



E0158, 自分の町が好き, 明石高専, 山下早紀

木の特性を活かした提案が評価の対象となりました。
ただ木を特性にしている割に、開口部のデザイン等にもう一步、木の素材なり、伝統的な言語なり、パターンランゲージを取り入れた現代デザインが考えられるのではないかという評価でした。



E0175, 棚田 APART, 明石高専, 尾崎恒亮, 黒田潤一, 桧垣正弘

アパートというコンセプト、ストロベリーブロックの提案など魅力的な提案ということで評価を受けました。審査員のほうからは、技術的なところのバックアップ、一見簡単そうな部分但实际上は意外に難しいのではないかということを含めて、今後の継続的なスタディを望みます。



プロポーザルコンペティションの経過および審査結果

(1) 経緯

平成 18 年 9 月 15 日 (金)

09:00 ~ 12:00 都城工業高等専門学校図書館第 1 会議室にて、予選審査。
審査委員 3 名により、協議の上、12 点を選出。



予選審査風景

平成 18 年 11 月 16 日 (金)

11:00 ~ 12:00 受付

- 1) チーム構成メンバー及び引率教員のチェック
- 2) 持込の制作道具のチェック
- 3) 事務局が準備した道具・材料のチェック

12:00 ~ 21:45 作品制作

13:00 ~ 15:00 注意事項の説明 (前もって、文書で配布)

作品展示についての打ち合わせ (各チーム引率者と個別に実施)

- 1) 作品展示の予定時間
- 2) 展示場所

基本的には作品の展示順 (搬出順) に並べることとした。

展示場所が特に限定される作品 (展示する際、何かにもたれかける場所が必要、或いは作品を吊す場所が必要、電源が必要など) については、制作チームのメンバー若しくは引率教員と相談の上、展示場所を指定した。

3) その他

食事時間、開会式・ウェルカムパーティーへの参加などは、各制作チームの判断とした。

平成 18 年 11 月 16 日 (土)

- 09:00 ~ 12:00 作品制作
12 時までには全チーム制作終了
- 09:00 ~ 13:00 作品展示
- 1) 制作が完了したチームの作品から順に、制作会場(都城市民会館)から審査会場(千日通り)へ、作姑を運搬した。
 - 2) 作品の運搬にはトラックを使用
 - 3) 制作チームはワゴン車若しくは徒歩にて移動
 - 4) 作品をトラックへ載せたり降ろしたりする作業以外、制作チームで作品を移動し、所定の場所に展示した。
 - 5) 制作作品が規定の寸法内に収まっているか、事務局でチェックした。
- 13:00 ~ 15:10 プレゼンテーション及び質疑応答
- 1) 各チーム、作品に関して審査委員に向けてプレゼンテーション実施
 - 2) プレゼンテーション時間は 5 分とした。
 - 3) プレゼンテーション後に審査委員より制作チームへの質疑がなされた。
 - 4) 全チームのプレゼンテーション終了後、各審査委員は個別に会場を回り、更に作品をチェックし、制作チームへの質疑がなされた。
- 15:10 ~ 15:40 審査まとめ
- 1) 審査委員 3 名の協議により、最優秀賞(都城市長賞)1 点、優秀賞 2 点が選出された。
 - 2) 会場審査賞は、千日通り商店街の投票結果を参考にし、千日通り商店街振興組合により選出された審査委員により決定された。



制作会場風景



制作会場風景



審査会場風景



審査会場風景

都城高専茶道同好会による煎茶席

尚、投票用紙は千日通り商店街の各店舗に1票ずつ配布された。

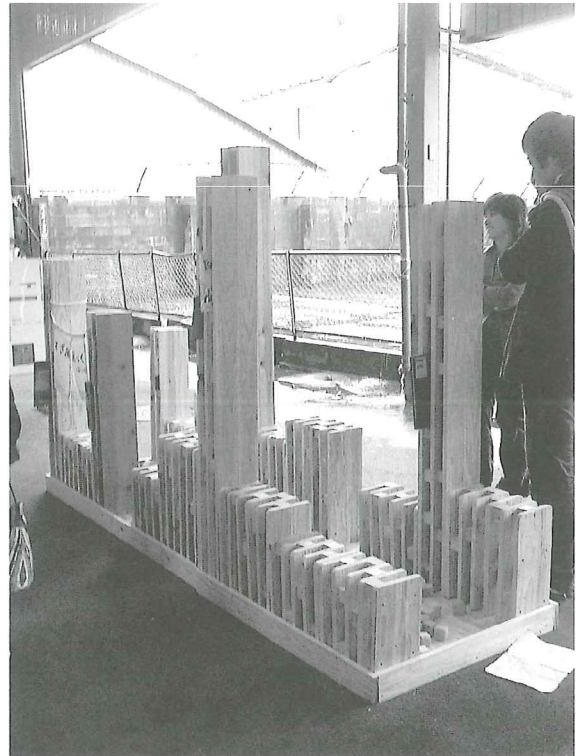
15:45 ~ 14:05 審査結果発表及び審査講評

- 1) 有馬審査委員長より、最優秀賞及び優秀賞が発表された。
- 2) 村岡審査委員より、会場審査賞が発表された。また、全作品を千日通り商店街が引き取り、活用することが述べられた。
- 3) 各審査委員より、作品についての講評が述べられた。

(2) 講評 (審査委員長 有馬孝禮)

プロポーザルコンペティションの今回のテーマは「商店街のマスカレード」である、各地のアーケードの商店街がシャッター通りといわれることが少なくない昨今である。今回のコンペティション開催地である都城市中心街地に位置する千日通り商店街もその例外ではない。現在活力を戻すべく再開発が計画されつつある。本プロポーザルはこの商店街の再開発の一環として商店の前面、駐車場などに設置する「商店の仮面」(マスカレード)となる街具の提案を求めたものである。移動・収納・撤去が可能であることもイベント空間への創出に重要な要素であった。そのために使用する素材として宮崎県が口本一の生産量を誇るスギが提供されたことが特筆される場所である。いうまでもなく日本を代表する樹種であり、ほぼ全国のどの地でも対応できるものでもあるからである。スギは通直で、柔らかく、軽くてしかも粘り強い資材であるが、地元製材関係者の協力で用意されたスギ製材品も加工精度、品質とも優れたもので、本選に出場した12の提案が限られた時間内での制作作業においてすべて完成展示に至った大きな要素でもあった。また事前に商店街の状況をよく調査をしてふさわしい対応を捉えていたと思われる作品や、完成までの手順、工具などに工夫のされたものが少なくなかった。そして本選での制作風景は工業高等専門学校の有する「もの作り」の原点として貴重なものであり、感銘の深いものであった。

予選、本選を通じて審査で重視された点をあげると、デザイン的に美しいこと、マスカレードとしての機能を確保していること、制作段階で技術的な工夫がみられること、時間の経過に伴って陳腐化したり、容易にゴミにならないことなどである、とくに本選の展示段階においては千日通り商店街の活性化、雰囲気これらの作品によってどのように展開してくるであろうかが話題になった。すなわち、一般的にマスカレードに



最優秀賞 (都城市長賞)
すぎ風呂つく (あしゆ)
ガテン@工藤組 (明石高専)



優秀賞 : 和飾~チラリズムとの融合
Team 延岡 (都城高専)

よる商店街の活性化は、訪れる客が雰囲気や新たな展開を作る、商店関係者がやる気をおこし追加工夫をする、そのものが特筆に値する魅力があり集客するなどが予想、期待される。これらに沿って作品を区分してみるとはその特性として展示されたか作品はいずれかを持っているものであった。

最優秀賞「すぎ風呂っく(あしゆ)」:スギの持つ柔らかさとその多様性を生かして、そこに癒しの空間を提供した。とくに作り手の優しさがブロックおよび構成部材の面取りなど随所にみられた。それが素朴な中に商店街人々および訪れる人々に融和をもたらす雰囲気が感じられた。

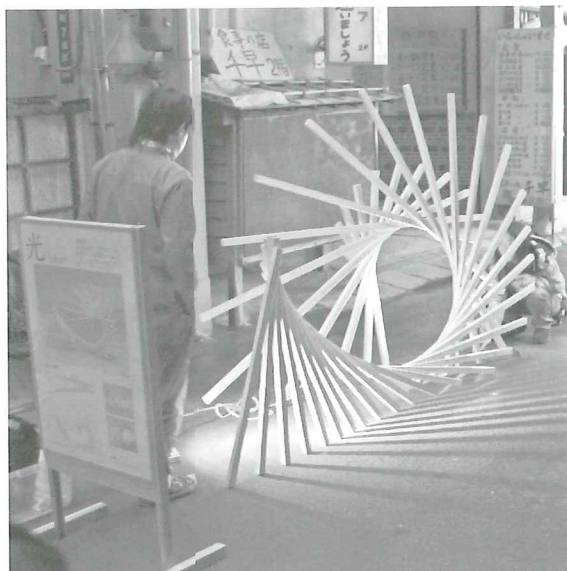
優秀賞「和飾~チャリズムとの融合」:和とチャリズムの融合という名の通り繊細な格子組の中に細部にわたる気配りがみられた。折りたたみ、開閉にその表情が変化し、店主がその表情を生かそうという動機への可能性を感じさせた。

優秀賞「光 hikari」:直線部材のみで、三次曲線を表現したものでみるものを引きつけるものがあつた、素朴なスギの部材に表現を与るとともに hikari の位置による表現の多彩さは楽しませるものがあつた。

会場審査賞「ばったりまったり」「マチレゴ」はいずれも商店街の催しに新たな表情の創出、提案をするであろう。

本選に参加した残りの作品と賞を受けた作品との差はわずかなものであつた。また本選に参加できなかった作品の中にも実物を見てみたかつたものも少なくなかつた。各地での試みを期待したい、今回プロポーザルの「マスカレード」の作品群は小さなものとはいえ、さびしく活力のないといわれる今までの商店街の雰囲気をかえるであろうことは十分予想できる。そして今回、何よりも特筆されることはコンペティション終了後、全作品を商店街が引き受け、今後その実際の運用を試みる提案をいただいたことである。どのような展開がなされるか、その作品群の真の評価となるであろうから、その追跡の調査などを期待したい。

謝辞: 下記の高専に、掲載した写真を提供していただきました。有り難うございました。
徳山高専、サレジオ高専、米了高専、
明石高専



優秀賞 = 光 hikari
be bright (サレジオ高専)



佳作・会場審査賞 = マチレゴ
豊山高専 2A&3A(豊山高専)



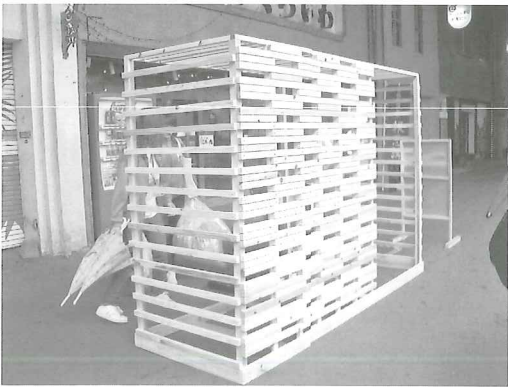
佳作・会場審査賞:ばったりまったり
まちぐみ(有明高専)



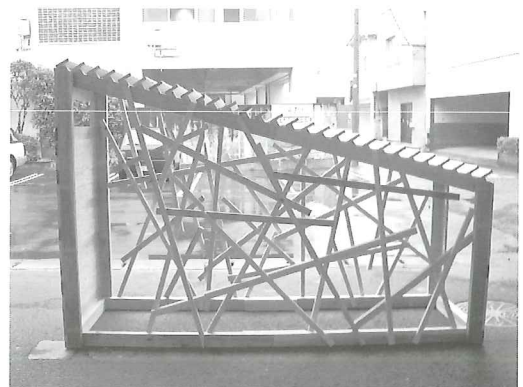
佳作: タングラム
少年ベンチ (サレジオ高専)



佳作: SUN GALLERY
イクレンジャー A (サレジオ高専)



佳作: 杉薫る千日の心
道家早紀 (米子高専)



佳作: 人かご
ぴよちゃんず (米子高専)



佳作 = grobe
grobe (豊田高専)



佳作: 簡素 / 壮大
簡素 / 壮大 (豊田高専)



審査風景



佳作 = Human・Frame
π企画 (阿南高専)

協賛企業・団体名一覧

全国高等専門学校デザインコンペティション 2006 in 都城は、全国の企業・団体より多くのご支援をいただきました。厚くお礼を申し上げます。

株式会社魚国総本社	はんこ屋さん 21 都城店
エコ計画株式会社	ハンズマン
えのきリフォーム	社団法人文教施設協会
大淀開発株式会社	前田建設工業株式会社
株式会社九南	株式会社増田工務店
有限会社銀星タクシー	株式会社益田設計事務所
久保産業株式会社	株式会社三国産業
株式会社建築資料研究社／日建学院	都城市ホテル協会
五洋建設株式会社	都城地区木材青壮年会
株式会社坂下組	都城木材株式会社
株式会社サニー・シーリング	社団法人宮崎県建設業協会
株式会社システム技研	社団法人宮崎県建築士会
株式会社下森建装	社団法人宮崎県建築設計事務所協会
株式会社シンケン	宮崎総合ビル管理株式会社
住友ゴム工業株式会社	山佐産業株式会社
株式会社総合資格	ヤンマーエネルギーシステム株式会社
豊橋技術科学大学建設工学系	吉原建設株式会社
長岡技術科学大学環境・建設系	
南榮工業株式会社・サンホテル都城	
株式会社新原産業	
西松建設株式会社	
社団法人日本橋梁建設協会	
都城工業高等専門学校同窓会	

(五十音順・敬称略)

委員紹介

- 全国高等専門学校テザアイコンパティション実行委員会 (設置：高等専門学校連合会)

委員長	廣瀬 寛	開催主管校校長	都城工業高等専門学校
委員	葦澤 憲吉	北海道地区	函館工業高等専門学校
	丸岡 晃	東北地区	八戸工業高等専門学校
	尾立 弘史	関東信越地区	小山工業高等専門学校
	三島 雅博	東海北陸地区	豊田工業高等専門学校
	八木 雅夫	近畿地区	明石工業高等専門学校
	田村 隆弘	中国地区	徳山工業高等専門学校
	太田 貞次	四国地区	高松工業高等専門学校
	須田 量哉	九州沖縄地区	都城工業高等専門学校

- 全国高等専門学校テザアイコンパティション開催地委員会 (設置：都城工業高等専門学校)

委員長	廣瀬 寛	校長	
副委員長	須田 量哉	建築学科・教授	
委員	田原 良信	副校長(教務主事)・教授	
	濱田 次男	副校長(学生主事)・教授	
	濱田 英介	校長補佐・教授	
	山下 敏明	専攻科長・教授	
	河野 行雄	機械工学科長・教授	
	剣田 貫治	電気工学科長・教授	
	國府 俊則	物質工学科長・教授	
	藤永 伸	一般科目文科長・教授	
	森茂 龍一	一般科目理科長・教授	
	西 利夫	事務部長	
	山下 泰弘	庶務課長	
	木下 行美	会計課長	
(幹事)	弓削 純一	学生課長	

- 小委員会
(総務小委員会)

委員長	剣田 貫治	電気工学科長・教授	
委員	藤永 伸	一般科目文科長・教授	
	田原 良信	副校長(教務主事)・教授	
	濱田 次男	副校長(学生主事)・教授	
	山下 敏明	専攻科長・教授	
	森茂 龍一	一般科目理科長・教授	
	原田志津男	建築学科・助教授	
	山下 泰弘	庶務課長	
	弓削 純一	学生課長	

(企画小委員会)

委員長 濱田 英介 校長補佐・教授
委員 弓削 純一 学生課長

(構造デザインコンペティションWG)

委員 河野 行雄 機械工学科長・教授 (WG長)
板倉 和則 建築学科・教授
山中 昇 機械工学科・教授
後藤 勝彦 建築学科・助手
奥野 守人 技術専門職員

(環境デザインコンペティションWG)

樋口 栄作 建築学科長・教授 (WG長)
中村 孝至 建築学科・助教授

(プロポーザルコンペティションWG)

林田 義伸 建築学科・教授 (WG長)
小原 聡司 建築学科・助教授
中村 裕文 建築学科・講師

(ホームページ担当)

原田志津男 建築学科・助教授
中村 博文 電子計算機センター・助教授

(財務小委員会)

委員長 國府 俊則 物質工学科長・教授
委員 藤永 伸 一般科目文科長・教授
山本 剛 建築学科・講師
木下 行美 会計課長
弓削 純一 学生課長

デザ
コン
2006